

令和元年度 活動報告書

熊本県地域医療支援機構 / 熊本大学病院 地域医療支援センター
熊本大学病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座

令和元年度 活動報告書

熊本県地域医療支援機構 / 熊本大学病院 地域医療支援センター
熊本大学病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座



もくじ

1 はじめに

1. 熊本県地域医療支援機構 理事長あいさつ	1
2. 地域医療支援センター長/ 地域医療・総合診療実践学寄附講座特任教授あいさつ	2
3. スタッフ一覧	3

2 熊本県地域医療支援機構 (熊本大学病院 地域医療支援センター)

1. 活動概要	4
2. 年間活動実績	4
3. 活動報告	
I. 県内における医師不足の状況などの把握・分析	5
II. 医師不足医療機関の支援	7
III. 医師が循環して勤務できるシステムの構築	8
IV. 地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師の キャリア形成支援	10
V. 医師に関する求人・求職などの情報発信と相談対応	12
VI. 県内医療関係機関との協力関係の構築	15
VII. 熊本県地域医療支援機構講演会	16
VIII. 女性医師キャリア支援	17
4. そのほか	23

3 地域医療・総合診療実践学寄附講座

1. 活動概要	25
2. 年間活動実績	25
3. 活動報告	
I. 地域医療支援（診療支援）	26
II. 調査・研究	26
III. 教育活動	27
● 卒前教育（カリキュラム内教育）	27
● 卒後教育（初期臨床研修・専門医研修）	32
IV. 指導医養成	37
V. 講演会	38
VI. その他	38

4 教育拠点

<玉名教育拠点>

1. 活動概要	39
2. 年間活動実績	39
3. 活動報告	
I. 教育活動	40
II. 診療	43
III. 年間診療報告	43



1 はじめに

1. 熊本県地域医療支援機構 理事長あいさつ



熊本県地域医療支援機構 理事長
熊本大学病院 病院長

谷 原 秀 信

皆様方には、平素より熊本県地域医療支援機構ならびに地域医療・総合診療実践学寄附講座の取り組みに、多大なご支援とご協力をいただき、深く感謝申し上げます。この度、令和元年度の活動報告書を作成致しましたので、ご一読いただければ幸いに存じます。

今年度は、平成25年12月に設立された熊本県地域医療支援機構が、6年目を迎えました。また地域医療・総合診療寄附講座では、今年度から新たに天草教育拠点を設置し、それも含めさらに3年間の寄附講座がスタートいたしました。

更に、国の医療法、医師法の改正に基づき、医師確保に関する会議体は「地域医療対策協議会」に一本化され、それに伴い地域医療支援機構の組織も整理されたところです。

ところで、本年度は喜ばしいことがありました。その一つは地域医療支援センターの責任者である松井先生はじめ3名のメンバーが熊本大学教育活動表彰を受賞されたことです。更に同センター所属の後藤先生が、「お伊ネ賞」の全国奨励賞を受賞されたことです。この事は、これまでの努力が各方面から評価され、取り組みの成果が認められたことであり大変ありがたく思っております。

こういった取り組みにも拘わらず、医師の地域偏在は依然として大きな問題であります。厚生労働省から示された医師偏在指標等では、本県は医師多数県とされています。しかし、地域の実情を踏まえれば、医師少数地域は多くあり、医師偏在対策を進めていくことは本県の重要課題であります。

その状況を踏まえ、今年度、熊本県医師確保計画が策定されました。この計画に基づき地域医療を志す医学生や医師の養成、熊本県地域医療連携ネットワークの構築などを通じ、実効的な地域医療対策を進めていく必要があります。また、各診療分野のキャリア形成プログラムが策定され、特に総合診療専門医については令和5（2023）年度までの医師確保計画期間内に20名の総合診療専門研修プログラム専攻医を確保する目標が建てられました。総合診療専門医の養成を担う天草教育拠点や玉名教育拠点等の活用をはじめ、目標達成に向けた取り組みが今後の課題となっております。

このような中であって、熊本県、医師会、市町村並びに地域医療関係者などの関係諸団体と連携を一層強化し、熊本の県内各地で望ましい地域医療が提供されるよう努力してまいりたいと存じます。今後とも、変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

<天草教育拠点>

1. 活動概要	44
2. 年間活動実績	44
3. 活動報告	
I. 教育活動	45
II. 診療	46
III. 年間診療報告	46

5 熊本県医師修学資金貸与制度

1. 地域医療ゼミ	
I. 概要	48
II. 活動報告	48
2. 令和元年度夏季学生地域医療特別実習	
I. 概要	51
II. 実習の目標と狙い	51
III. 2日間の日程	52
3. 令和元年度卒業生	53

6 業績

1. 地域医療支援センター	57
2. 地域医療・総合診療実践学寄附講座	60
3. 玉名教育拠点	61

7 おわりに

1. 教員から	62
2. 事務から	66
3. あとがき	68

2. 地域医療支援センター長/地域医療・総合診療実践学寄附講座特任教授あいさつ



熊本大学病院 地域医療支援センター センター長
熊本大学病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座 特任教授

松 井 邦 彦

令和元年度の報告書をお送りいたします。いつも年度末のこの時期に一年間を振り返り、報告書にご挨拶の文章を書かせていただいています。例年と同じように忙しい一年でしたが、特に本年度は予定の変更を余儀なくされることが多々ありました。それぞれの場面では、検討を重ねた上での判断でしたが、関係の皆様方には大変なご迷惑をおかけすることになりました。

例年二泊三日で行ってきた夏の特別地域医療実習は、大型台風接近のために一泊二日に変更しました。幸いにも熊本に大きな被害はなく、予定通りに行っても問題はありませんでした。この原稿を書いている令和二年三月初めの時点では、新型コロナウイルス肺炎の流行を防ぐために、様々な行事等が中止になっています。私達が関係する公の行事として、熊本県地域医療支援機構の理事会や地域医療対策協議会は、いずれも中止になりました。

安全を守り被害を最小限にするため、今後を予想し先んじた対応が求められるのは当然です。しかし、中止や変更の判断を下すことは容易ではありません。結果として、過剰な対応であったと後に批判されることになったとしても、やむを得ないと思います。むしろそれは望ましい結果を迎えることが出来たと、喜ぶべきでしょう。

熊本県医師修学資金貸与制度について、令和二年三月の時点で全対象者は77人、そのうち医師となった方々は（研修医を含め）32人となりました。第一期生の先生方は、本年度で卒後5年目が終わります。地域の施設で活躍される方々が増え、皆様方のご期待に、ゆっくりですが適えることが出来つつあると思います。その一方で、対象者各人の将来を見据え、専門職である医師としてのキャリア支援も、ますます重要になってきます。なかなか容易ではありませんが、精一杯支援していくことが我々の使命です。

最後に当寄附講座/地域医療支援センターの教員、事務スタッフの中には、本年度をもって去られる方々がいらっしゃいます。これまで一緒に働きご指導をいただいた感謝と共に、ご健康と今後のご活躍をお祈りしたいと思います。また大学スタッフの皆様方、県庁医療政策課の皆様方にも感謝を申し上げ、来年度も引き続きのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

3. ス タ ッ フ 一 覧

◆ 熊本県地域医療支援機構（熊本大学病院 地域医療支援センター）

松井 邦彦 特任教授（センター長） 総合診療科	後藤 理英子 特任助教 糖尿病・代謝内分泌内科
谷口 純一 特任准教授（副センター長） 総合診療科	高柳 宏史 特任助教 総合診療科
古賀 義規 客員研究員 （御所浦診療所所長）	片岡 恵一郎 客員研究員 小国公立病院副院長
坂田 正充 地域医療支援コーディネーター	中川 実咲 事務補佐員
松岡 大智 地域医療支援コーディネーター	横手 友紀子 事務補佐員
高塚 貴子 女性医師復職支援コーディネーター	大西 留美 事務補佐員

◆ 熊本大学病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座

松井 邦彦 特任教授 総合診療科	久保 清美 事務補佐員
佐土原 道人 特任助教 総合診療科	山並 美緒 事務補佐員
前田 幸佑 特任助教 総合診療科	山口 香 事務補佐員

◆ 玉名教育拠点（公立玉名中央病院）

田宮 貞宏 熊本大学非常勤講師 総合診療科
小山 耕太 熊本大学非常勤講師 総合診療科

◆ 専攻医

松田 圭史	後期研修医3年目
北村 泰斗	後期研修医2年目
久保崎 順子	後期研修医2年目
空田 健一	後期研修医2年目
永田 洋介	後期研修医2年目
早川 香菜美	後期研修医2年目
平賀 円	後期研修医2年目

◆ 天草教育拠点（天草地域医療センター）

高杉 香志也 特任助教 総合診療科

鶴田 真三 特任助教 総合診療科

熊本県地域医療支援機構

(熊本大学病院 地域医療支援センター)

熊本県地域医療支援機構

1. 活動概要

熊本県地域医療支援機構では、熊本県と、熊本県から機構業務の一部を委託された熊本大学病院が協力して機構の運営を行っています。当機構では県内における医師不足の状況等を把握・分析し、医師のキャリア形成支援と一体的に医師不足医療機関の医師確保の支援等を行っています。

今年度は、平成25年12月に設立された熊本県地域医療支援機構が、6年目を迎えました。また地域医療・総合診療寄附講座では、今年度から新たに天草教育拠点を設置し、それも含めさらに3年間の寄附講座がスタートいたしました。

このような中、地域医療・総合診療実践学寄附講座の新しい教育拠点の天草設置やキャリア形成プログラムの周知に努めました。さらに学生に対して地域医療ゼミや地域医療を体験する機会の提供、育児等で家庭に入った女性医師の復職を支援するためのメンター制度やお留守番医師制度の普及・啓発にも努めました。機構講演会では、地域社会と連携した総合診療医の育成について御講演いただきました。

また、これまでの取り組みが評価され、地域医療支援センターのメンバーが熊本大学教育活動表彰や「お伊ネ賞」の全国奨励賞の受賞もありました。

【主な取り組み】

- ① 県内における医師不足の状況等の把握・分析
- ② 医師不足医療機関の支援
- ③ 都市部と地域の医療機関が連携し、医師が循環して勤務できるシステムの構築
- ④ 地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師のキャリア形成支援
- ⑤ 医師に関する求人・求職などの情報発信と相談対応
- ⑥ 県内医療関係機関との協力関係の構築
- ⑦ 熊本県地域医療支援機構講演会
- ⑧ 女性医師キャリア支援

2. 年間活動実績

月	日	行事
4	10	地域医療支援機構担当者連絡会
	13	天草教育拠点開所式
5	8	医師就学資金貸与学生面談
	13	医師就学資金貸与学生面談
	14	キャリア支援セミナー
	15	メンター連絡会議
	15	医師就学資金貸与学生面談
	20	医師就学資金貸与学生面談
	22	地域医療支援機構担当者連絡会
	22	医師就学資金貸与学生面談
6	5	地域医療支援機構担当者連絡会
	28	肥後ふるさと医学生実習支援事業広報
7	2	地域医療対策協議会
	10	地域医療支援機構担当者連絡会
8	2	医師就学資金貸与医師面談
	5	ネットワーク拠点病院長意見交換会
	9	オープンキャンパス
	16-17	夏季地域医療特別実習
	28	医師就学資金貸与学生面談
9	4	地域医療支援機構担当者連絡会
10	1	地域医療対策協議会
	9	地域医療支援機構担当者連絡会
11	13	医学生・研修医をサポートする会セミナー
	25	地域医療支援機構講演会
	26-27	医師修学資金貸与医師管理システム調査
12	18	地域医療支援機構担当者連絡会
	24	地域医療対策協議会
1	29	地域医療支援機構担当者連絡会
2	7	クローバーセミナー
	19	地域医療支援機構担当者連絡会
3	18	地域医療支援機構担当者連絡会
	25	熊本県副知事との面談（予定）

3. 活動報告

① 県内における医師不足の状況などの把握・分析

- ◆ 国が新たに定める医師偏在指標等を踏まえ、県内の二次医療圏及び診療科ごとの医師不足状況等の分析

平成29年度に実施した医師確保に関する全医療機関調査をもとに、施設規模ごと（病院：200床以上・200床未満、診療所：有床・無床）に地域別、診療科別に勤務医師数（常勤医師数、非常勤医師数）、現在の求人の状況、令和5年度における必要医師数、地域別の1日平均外来患者数、1日平均入院患者数について分析を行いました。

また、医師確保計画策定の検討において必要となる県内の医療施設に従事する医師数の算定について、対象者が特定され地域の一般住民がほとんど利用することない特定の医療機関の医師数を除外することとなりました。これを踏まえて、県内全医療機関を検証して、除外の考え方を整理し、水俣病や重度心身障害など特定の疾患を対象として診療を行う医療機関に勤務する医師数を除外することにつなげました。

現在は県において策定される医師確保計画がより地域の実情に近いデータを踏まえたものとなるような、分析を心がけているところです。

◆ 熊本県医師就学資金貸与条例の知事指定病院等の調査

1 知事指定病院等の状況調査実施要領

【調査目的】

熊本県医師修学資金貸与医師については、「熊本県医師修学資金貸与医師の勤務等に関する要綱」第2条に規定する知事が指定する病院及び診療所（指定病院等）に一定期間勤務することになります。またその際、貸与医師は同要綱第3条及び第4条に定められた指定病院等にローテーションに基づき勤務します。

また、熊本県医師修学資金貸与医師については、本人の希望を踏まえ、キャリア形成を支援するとともに上記ルールに沿った勤務先を協議し、大学病院各診療科や関係医療機関と調整を行うことになっています。

そのため、勤務先となる指定病院等がどのような状況か、機構としても承知しておく必要があります。また、本人が勤務する医療機関の選択における判断に資するためにも情報を把握しておく必要もあります。

そこで、前回（平成30年10月）知事指定病院である36病院の医師不足の状況、教育指導体制、待遇等について調査を行いました。今回はそのデータを更新するため、調査を行うものです。

【実施主体】

熊本県地域医療支援機構

【調査対象及び調査方法】

対象：知事指定病院（31病院）、知事指定診療所（4診療所）
方法：前回の調査票配布し朱書訂正

【調査内容】

病院の医師不足状況、待遇、労働管理・福利厚生環境、教育指導体制等

熊本県地域医療支援機構

【調査スケジュール】

11月	調査票発送
12月	取りまとめ、調査票分析
1月以降	対象者への情報提供

2 調査結果（平成30年度調査との比較）

（1）医師の充足状況について

①「かなり不足している」との回答した病院が平成30年度調査では14件から今回11件に減少したが、どちらかというと不足しているが10件から17件と大幅に増加した。一方、充足しているとする施設は減少し、依然として医師不足と感じている病院が多数である。

（病院数）	R1年度	H30年度	H28年度
1.十分充足している	1	0	0
2.どちらかというと充足している	3	6	6
3.どちらともいえない	3	5	5
4.どちらかというと不足している	17	10	11
5.かなり不足している	11	14	13
合 計	35	35	35

②診療科毎では、総合診療科、外科、神経内科、小児科、泌尿器科、産科で不足医師数の増加がある一方、内科、消化器科、救急救命で、不足医師数の減少がみられた。皮膚科、婦人科については、医師不足が解消された状態になった。

不足人数	R1年度	H30年度	H28年度	不足人数	R1年度	H30年度	H28年度
外科	12名	9名	6名	総合診療科	22名	17名	21名
眼科	4名	4名	2名	内科	12名	14名	17名
皮膚科	0名	1名	4名	神経内科	12名	10名	8名
泌尿器科	5名	3名	6名	消化器科	13名	14名	11名
産科	5名	4名	7名	小児科	12名	11名	9名
婦人科	0名	4名	2名	救急救命科	6名	10名	5名

③常勤、非常勤医師の関係では、内科で常勤医師、非常勤医師ともに減少。外科については、常勤医、非常勤医師がともに増加している。脳神経外科は常勤医が増加する一方非常勤医は減少している。

人数	内科			外科			脳神経外科		
	R1年度	30年度	28年度	R1年度	30年度	28年度	R1年度	30年度	28年度
常勤	30名	46名	52名	79名	75名	82名	18名	17名	14名
非常勤	10.7名	13.8名	0.53名	4.99名	4.6名	1.8名	0.54名	0.8名	5.4名

（2）労働環境

①当直体制について、宿直、日直体制は、「すべて常勤医で対応している」病院が減少し、「応援を依頼している」病院が増加している。

病院数		R1年度	H30年度	H28年度
宿直	常勤医で対応	8	8	11
	応援を依頼	21	20	17
日直	常勤医で対応	6	7	10
	応援を依頼	20	17	15

②救急患者の受入れについて、「1日の平均救急外来患者数」は若干減少したものの、「救急車の年間受け入れ台数」は、898台が今回927台と大きく増加している。

③院内病児保育制度について、昨年度の6件から変わらないが、学童保育の実施、勤務における女性医師への配慮についてさらなる改善がみられる。

④Wi-Fi接続環境について、院内が21件から23件へ、住宅が7件から8件へと整備が進んできている。

（3）待遇・福利厚生

①医師の平均総収入は、卒後3年目、6年目ともに増加している。

②取得可能な休暇・休職について大きな変化はないが、介護休業制度が増加している。

③女性医師の妊娠期間中・育休終了後の当直免除、時間外免除、短時間勤務制度等について改善がみられる。

（4）教育指導体制

①学会・研修会参加を勤務扱いする病院は、22件から23件へ、出張に係る旅費の補助は、30件から31件に増加した。

②医学生対象の実習受入れ状況について、22件から40件に増加し、年間受け入れ人数も235名から424名へと大幅に増加した。

（5）診療所

診療所については4カ所とも大きな変化はないが、1カ所で1日の平均患者数が増加したが、2カ所については減少している。

II 医師不足医療機関の支援

◆ 診療・診療支援

大学病院においては、「総合診療科」の外来診療を月曜日から金曜日まで実施し、学外においては、各教員が複数の地域の医療施設にて、下表のとおり非常勤での診療支援活動を行いました。

➤ 大学病院総合診療外来

月	火	水	木	金
谷口	松井	高柳	佐土原	前田
			谷口（2019.9～2020.3 奇数週）	

➤ 学外診療支援

松井	2019.4～2020.3	公立玉名中央病院（週1回）
谷口	2019.4～2020.3	公立玉名中央病院（奇数週、週1回）
	2019.4～2020.3	上天草総合病院（偶数週、週1回）
高柳	2019.4～2020.3	小国公立病院（週1回）
	2019.4～2020.3	御所浦診療所（週1回）

医師が循環して勤務できるシステムの構築

- ◆ 熊本市内と地域の医療機関が連携して、医師が都市部と地域を循環して勤務出来るシステムの構築に向けた取組状況

地域医療・総合診療実践学寄附講座の新たな教育拠点の設置

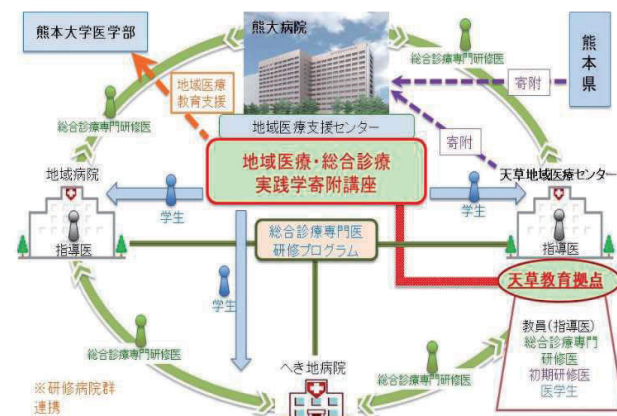
平成30年4月から5月にかけて、県内の公的病院に対し、教育拠点の設置の意向調査を実施し、そのうえで、天草地域医療センターを選定しました。平成31年4月13日に開設式を実施し、地域医療・総合診療実践学寄附講座から派遣した教員2人が、地域での診療に従事するとともに、専攻医等の指導・育成の業務に従事しています。

(天草教育拠点のイメージ)

- ・大学→本渡に教員派遣・循環
- ・本渡で専門医・指導医を養成→天草地域内に派遣



地域医療・総合診療実践学寄附講座及び天草教育拠点の役割／位置付け



◆ 遠隔診療・教育支援システム（テレビ会議システム、学習・診療支援オンラインツール等）の構築支援

1. テレビ会議システム

- 熊本県の総合診療専門医育成支援設備整備事業の計画に基づき、令和元年度は栖本病院、新和病院の2カ所にテレビ会議システムを配備するための支援・調整を行いました。また、天草教育拠点の開設に合わせ、県からの支援を受け天草地域医療センターにも設置されました。
- 2週間に1度Web合同カンファレンスをテレビ会議システムを利用して開催しました。
- 講演会やグラウンドワークの様子をテレビ会議システムで中継を行いました。

整備場所

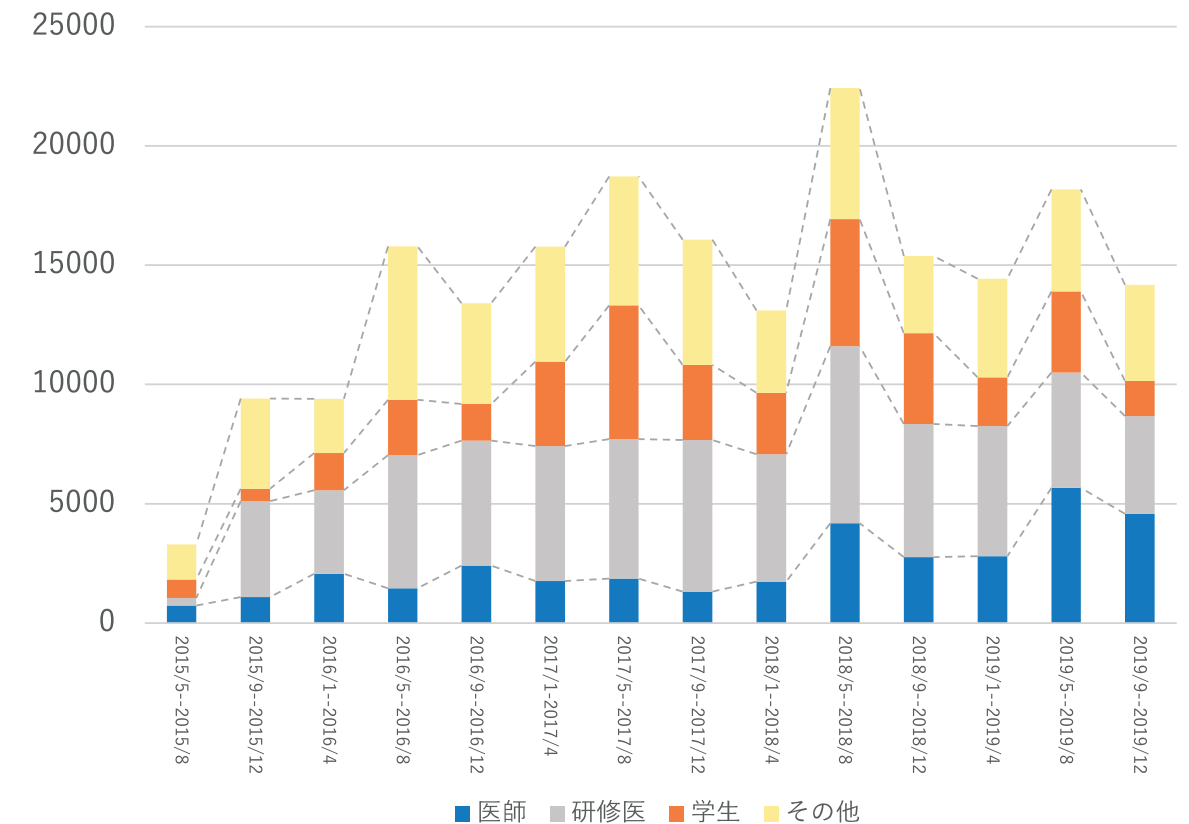
H28年度	- 御所浦診療所 - 湯島へき地診療所 - そよう病院
H29年度	- 小国公立病院 - 公立多良木病院 - 上天草総合病院
H30年度	- 河浦病院 - 阿蘇医療センター - 人吉医療センター
R1年度	- 栖本病院 - 新和病院

2. 学習・診療支援オンラインツール

令和元年度は、「今日の臨床サポート」及び「Procedures Consult」の医療情報を提供するためのIDパスワードを医師修学資金貸与学生・医師、自治医科大学学生、総合診療プログラム専攻医等10名に交付し、交付者は累計で169名になりました。

また、特別臨床実習（クリクラ）を受けた104名の学生に実習医療機関での「今日の臨床サポート」及び「Procedures Consult」の医療情報を提供し活用を図りました。

利用状況（2015年3月に導入以来、4ヶ月毎に集計）▼



地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師のキャリア形成支援

◆ 熊本県医師修学資金貸与学生及び医師のキャリア形成支援について

1. 熊本県医師修学資金貸与医師のキャリア形成支援制度の実施

- 「地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師を支援する制度」への登録を推進しました。
- 地域枠医師のキャリア形成プログラムの作成に当たって、各診療科において専攻医が義務を果たしながらキャリア形成を図ることができるよう、県と協力して各医局との調整を行いました。また、キャリア形成プログラム周知のため、地域医療支援機構ホームページにキャリア形成プログラムを掲載するとともに貸与医師及び貸与学生全員にプログラムを郵送し、説明会（令和2年2月20日）を実施しました。

2. 熊本県医師修学資金貸与学生・医師の面談

修学資金貸与医師への面談を通して将来のキャリア形成について、今後の勤務先の選定等についてアドバイスをを行いました。

- 医師については卒後1～6年次医師等33名を対象として、令和元年8月～12月の間で、現在のキャリアと今後のキャリア形成をどうするのか、また、来年度の勤務先をどこにするのか等についての面談を実施しました。
- 学生については1年生～6年生44名を対象として、平成31年4月～令和元年5月の間で、現在の学業の課題や生活上の問題等について面談を実施しました。6年生にはさらに初期研修の希望先病院等について面談しました。

3. 岐阜県事例調査

令和元年11月26日～27日、岐阜県医師育成・確保コンソーシアム事務局（岐阜大学医学部附属地域医療医学センター内）を県医療政策課と一緒に訪問し、岐阜県の医師修学資金制度の運用状況、キャリア形成支援の取組状況、面談の実施状況、データ管理の在り方等について調査し、今後の本県の制度運営について、改善の参考としました。特にこの調査を踏まえ、修学資金貸与医師の義務年限達成状況等のデータ管理システムについて整備しました。

4. 卒業生の知事との面談

令和2年3月25日10名の卒業生が副知事と面談し、卒業生からは地域医療に携わる決意が述べられ、副知事からは熊本県の未来を担う医師への激励の言葉をいただきました。

◆ 熊本県医師修学資金貸与医師の専門研修プログラム修了後における配置ルールづくり

- 貸与医師の専攻診療分野次第では配置ルール第2グループに専攻した診療科がない場合や、資格を更新する場合の手術件数等のクリアが難しいことなどから、今後の取り扱いをどうするか検討を行いました。
- 貸与医師が選択した全ての診療科において、でき得る限り早期に義務年限の償還が果たせることを基本とした配置ルール作りを進めていくこととしています。

◆ 初期臨床研修及び新専門医制度への対応

1. 初期臨床研修関係

医師修学資金貸与学生のマッチングについてアドバイスをするなど支援を行い、来年度から臨床研修予定の10名全員が県内の研修病院にマッチングしました。また、令和元年6月9日「熊本大学病院群卒後臨床研修プログラム説明会」に参加し、総合診療科を目指す学生の掘り起こしに努めました。

2. 新専門医制度

地域医療支援機構理事長の熊本大学病院長及び理事の熊本大学病院地域医療支援センター長が地域医療対策協議会に委員として参加し、医師の地域偏在の解消に向けて、地域枠医師のキャリア形成について、義務年限の償還との両立の必要性、勤務先の地域医療機関における教育・育成の充実の必要性について各医療機関に理解を求めました。

◆ 総合診療専門医及び指導医の養成、確保

1. 日本専門医機構への総合診療専門医研修プログラム認定申請

令和元年7月5日付で、同機構に「熊本大学病院総合診療専門医研修プログラム」の変更申請を行い、同年10月に承認されました。県内では熊本大学病院の他、5医療機関（熊本赤十字病院、くわみず病院、済生会熊本病院、国立医療センター、人吉医療センター）でプログラムが承認されています。

2. 総合診療専門医研修プログラム責任者協議会への参加

令和元年5月と7月に開催された日本プライマリ・ケア連合学会主催の責任者協議会に参加しました。

3. 総合診療専門医研修プログラムの周知

県内6つのプログラムについて、地域医療支援機構ホームページに掲載し、その周知を図りました。また、令和元年5月18日、19日に開催された日本プライマリ・ケア連合学会学術大会（京都市で開催）で、総合診療専門医研修プログラムの紹介をしました。さらに、熊本大学病院専門医研修説明会（6月9日）での周知、熊大総診プログラムの周知用チラシを臨床研修医対象に配布しました。

11月15日には、熊本大学病院所属の臨床研修医を対象に総合診療専門医研修プログラム説明会を開催しました。

その他、6月の「第6回九州山口家庭医療・総合診療セミナー」、11月の「医学生・研修医等をサポートする会」、「地域医療支援機構講演会」において、熊大総診プログラムパンフレット（周知啓発用のチラシ）を配布し、周知に努めました。

4. 総合診療専門医の熊本県内プログラムへの登録

県内6つの総合診療専門医研修プログラムのうち、熊本大学病院に1名が登録されました。ちなみに、2019年度に他病院のプログラムで研修を開始した専攻医1人が、熊本大学病院の総合診療専門医研修プログラムに移籍しました。

◆ 地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師を支援する制度の運営

「知事が指定する病院等の具体的な指定先」、「指定病院等の区分」、「具体的な配置ローテーションルール」等に関する規程について、熊本大学医学部新1年生（修学資金貸与学生）に説明し、「地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師を支援する制度」の登録を推進しました。

自治医科大学1年生にも同様に説明し、「地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師を支援する制度」の登録を推進しました。さらに、登録者には「今日の臨床サポート」及び「プロシージャーズ・コンサルト」の医療情報を提供するためのIDパスワードを交付しました。

区分	年数	地域枠	一般枠	県外枠	計
後期研修/ 地域勤務	5年目	-	3	-	3
	4年目	4	1	-	5
	3年目	4	4	-	8
臨床研修	2年目	5	2	0	7
	1年目	5	5	0	10
在学学生	6年生	4	5	0	9
	5年生	8	0	1	9
	4年生	5	3	0	8
	3年生	5	1	0	6
	2年生	5	1	1	7
	1年生	5	0	0	5
合計		50	26	2	78

◀熊本県医師修学資金貸与人数一覧
（令和元年12月現在）

在学生は44名、初期研修医等は17名、
後期研修又は地域で勤務する医師は
16名、男女比は全体で6：4

◆ 医師に関する求人・求職などの情報の発信と相談対応

◆ 熊本県地域医療支援機構のホームページによる情報発信・相談対応

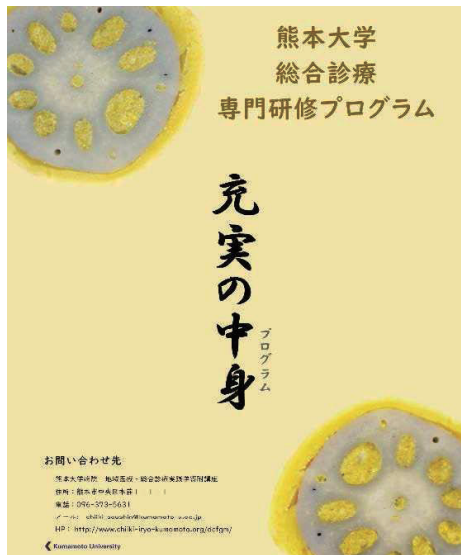
ホームページに相談コーナーを設け窓口を設置しています。また地域の医療機関で働いている医師就学資金貸与医師の活動レポートを掲載したり、イベントの告知やその報告なども行っています。

◆ 熊本県地域医療支援機構の専任医師等による相談対応

全国会議等で熊本県出身医師等からの相談を受けるとともに、地域医療ゼミ等の機会に医学生等からの相談に対応しました。また、県内の医療機関や自治体などに対しても相談対応をしました。

◆ 全国会議等での情報発信

全国会議等で、熊本県支援機構のチラシを配布するなど、熊本県の状況を説明し、求人活動を行いました。特に、5月17日（土）、18日（日）に開催された第10回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会においては、県内の総合診療プログラムの紹介と併せPR活動や求人活動を実施しました。



◆ メールマガジンによる情報発信

以下の3つのことを目的とし、メールマガジンの発行をしました。

- ① 熊本県内の医療関係者に対し、機構の取り組みを広く周知することで理解と協力を求める
- ② 県外在住の医療関係者に対し、熊本県内における地域医療の実情を知ってもらうことで、県内の地域医療への参加を促す
- ③ 熊本県内で地域医療に携わる医師及び医療関係者に対し、取り組みの状況と今後の方向性を示すことで、孤立感の緩和とモチベーションの向上を図る

<対象>

- ・熊本県と縁がある県外在住の医師及び医療関係者、県内の病院・医師
- ・県内自治体（市町村）の医療担当部署、熊本県及び郡市医師会
- ・熊本県医師修学資金貸与学生及び医師
- ・熊本出身自治医科大生及び熊本在住の自治医科大卒医師等
- ・講演会等でのアンケートでメールマガジンの受け取りを希望した医療関係者

<発信状況>

2019年4月から約740名の登録者に対し9回、地域医療支援機構の取り組みなどを発信しました。

2019/4/17	Vol.41	キャリア支援セミナー 開催のお知らせ
2019/5/10	Vol.42	肥後ふるさと医学生実習支援事業 開始のお知らせ
2019/9/2	Vol.43	第16回総合診療グラウンドラウンド 開催のお知らせ
2019/10/15	Vol.44	「医学生・研修医をサポートするための会」開催のお知らせ
2019/10/23	Vol.45	熊本県地域医療支援機構講演会 開催のお知らせ
2019/12/26	Vol.46	「熊本県医療人キャリアサポートクローバーセミナー」開催のお知らせ。

◆ 熊本県地域臨床実習支援制度の実施

県外にいる熊本県出身の医学生や、将来熊本県で従事することを考えている医学生等が、熊本県における地域医療の現状を学ぶことを支援することにより、将来の医師偏在化の是正や医師確保につなげることを目的として地域医療臨床実習支援制度（肥後ふるさと実習支援事業）を実施し、自治医大や、県外枠の地域枠学生、医学部進学者の多い県内の高校に対して制度を周知し、参加を促しました。しかしながら、本年度は1名のみの参加でした。

【募集対象者・募集人数】

募集対象者：熊本県外の大学に在学する地域医療に関心を有する医学部学生

募集人数：5名以内

【事業実施期間】

平成31年4月から令和2年2月まで

【実習期間及び実習内容】

実習期間：原則として1週間以内（最低でも2日以上）

実習内容：診療参加、診療見学等

【実習先】

知事指定病院等のうち29の医療機関（表）

【実習結果報告】

実習希望者は、実習終了後2週間以内に報告書を機構に提出

【事業の周知】

機構は全国の医学系大学などに本事業の周知などを図る

◆ 客員研究員報告

■ 小国公立病院 副院長 片岡 恵一郎

2018年度より、松井先生と谷口先生のご厚意により客員研究員として、小国公立病院に勤務しながら、月に1回地域医療支援センターのミーティングに参加させていただいております。月に1回だけでも、大学でのミーティングで触れることのできる情報は、地域にどっぷり浸かっている日常とは異なった視点で地域医療を俯瞰的に見ることができ、自分にとっては大変貴重な時間となっております。

今年度、私は、第6回やぶ医者大賞という賞をいただきました。この賞は、兵庫県養父（やぶ）市が主催するもので、全国で地域医療に邁進している50歳以下の若手から2人が選ばれ表彰されるものです。私が小国に赴任してこの7年間の関わった事、特に、小国郷医療福祉あんしんネットワークで5年間行ってきた事業を中心に実績を書きしたため応募したところ、大変光栄な事に今年の大賞に選んでいただき、2019年8月24日に養父市で表彰を受け、記念講演までさせていただきました。

よそ者として地域に入り込んで、地域医療に従事する者にとって、ローカルとグローバルの両者の視点をバランス良く取り入れる事はとても重要です。ローカルな課題をグローバルな視点で捉え、広く認知・評価される様な地域課題の解決方法を取ることが地域医療の質を上げていくものと信じ、日々、地域での医療とその課題解決に取り組んでいます。そして、その為に必要な、グローバルで俯瞰的な視点と視野を得るために、熊大の地域医療支援センターでの客員研究員の立場は大変貴重なものと実感しております。



■ 御所浦診療所 所長 古賀 義規

御所浦診療所は熊本県内で離島医療を経験できる数少ない診療所の1つであり、今年度も3週間のクリクラの医学生、1週間のECE3(早期臨床体験実習)医学生を受け入れました。私を含めてスタッフには刺激になり、日々の診療業務を振り返る良い機会になっております。患者様や地域の方々からの医学生の評判は総じて良く、医学生本人の資質だけでなく、大学での指導のおかげだと感じています。来年度には新たに総合診療専攻医の赴任も決まっており、家庭医療の教育・実践の質的向上を図っていきたいと思っています。

また今年度は産山村診療所や波野診療所にも訪問する機会をいただき、家庭医療が地域住民に望まれる医療との親和性が高いことを説明させていただきました。今後家庭医療を実践する医師が赴任した場合に、長期的視点に立っての県内公的診療所の連携の在り方などについて意見交換しました。

今後も、大学と連携しながら、より多くの医学生や研修医に離島・へき地での地域医療に理解を深めてもらい、地域医療・家庭医療にやりがいをもって取り組める人材育成の一助になりたいと思います。



◆ 県内医療関係機関との協力関係の構築

◆ 県内医療機関に対する助言などの支援、医療機関との連携、調整

1. 年間報告書を作成し、市町村・医療機関等に配布したり、機構リーフレットを関係者等に配布しました。
2. 地域臨床実習支援制度への協力を知事指定の病院に打診し、29病院からの協力を得ました。
3. 前回（平成30年10月）知事指定病院である35病院の医師不足の状況、教育指導体制、待遇等について調査を行いました。今回はそのデータを更新するため、再度調査を行いました。（P.5参照）

◆ 熊本県地域医療支援機構理事会の運営

➤ 第12回熊本県地域医療支援機構理事会

下記のとおり開催予定でしたが、新型コロナウイルスの感染等の問題が発生し、書面会議となりました。結果としては、協議事項全て承認されました。

【日 時】令和2年3月2日 14：30～15：30

【協議事項】

- (1) 令和元年度（2019年度）事業実績について（資料1）
- (2) 令和2年度（2020年度）事業計画について（資料2）
- (3) 熊本県医師修学資金貸与医師配置調整案について（資料3）

◆ 県医療行政・市町村との連携

- ・ 熊本県医療政策課の担当者と地域医療支援機構の職員との連絡会を月1～2回開催し、事業の進め方や政策推進について協議しました。（地域医療支援機構担当者連絡会等）
- ・ 医療法改正に伴い、厚生労働省が示した「キャリア形成プログラム運用指針」で、市町村等の修学資金貸与医師に対してもキャリア形成プログラムの適用に努めることとされているため、県内の自治体等の独自の医師修学資金についてその実態を調査をしました。

◆ 熊本大学医学部、県が設置する寄附講座、他の県委託事業との連携、調整

- ・ 地域医療・総合診療実践学寄附講座とは医師修学資金貸与学生主体の地域医療ゼミや夏季地域医療特別実習をはじめ各種セミナー等の開催に協力・支援し、一体となった取り組みに努めました。
- ・ 医学部をはじめ関係組織との連携に努め、学生等の地域医療研修等の支援を行いました。
- ・ 熊本県医療勤務環境改善支援センター運営協議会に機構理事及びコーディネーターがオブザーバーとして参加、逆に女性医師キャリア支援連絡協議会に医療勤務環境改善支援センターから参加し相互に連携を図りました。また、医療勤務環境改善センターと協議の上、そよう病院におけるファミリーサポートセンターの企画に協力しました。
- ・ 熊本県医師修学資金貸与医師の派遣対象医療機関に関する医療勤務環境改善支援センターとの相互連携

毎月1回実施している県医療政策課と地域医療支援機構担当者会議に医療勤務環境改善支援センターのセンター長、企画調整課長が出席。地域医療行政に関する情報共有を図りました。

医療勤務環境改善センターで実施する働き方改革に関する医療機関説明会等について当機構としても知事指定病院等について説明会開催の周知を行い、医師の勤務環境改善の必要性等について注意喚起を図りました。

令和元年度 熊本県地域医療支援機構講演会

社会的ニーズに対応した 総合診療医の育成

この数年の間、地域医療に係る制度改革や計画の策定が次々に行われてきました。地域医療構想の策定、医療法等の改正、第7次熊本県保健医療計画の策定等が行われ、現在地域医療対策協議会では医師確保計画の検討が行われています。その計画では、医師の地域偏在の解消に向け将来の地域医療の姿を描きながら医師の育成や確保等について定めていくこととされています。

そのような中で、地域医療の人材育成に当たる大学をはじめ関係機関の役割には大きなものがあります。そこで、地域社会と連携した総合診療医の育成に取り組まれている、富山大学の山城先生に御講演いただき、地域医療にあたる医師育成について考える機会として、今回の講演会を開催しました。

日時 2019年11月25日（月） 18:30～19:40
場 所 熊本大学病院 山崎記念館 研修ホール
講 師 山城 清二 先生
（富山大学附属病院 総合診療部教授）
対 象 医師及び医療関係者、自治体関係者等
主 催 熊本県地域医療支援機構
共 催 熊本県医師会
後 援 熊本市医師会、熊本市長会、熊本県町村会
協 力 日本プライマリ・ケア連合学会

お問い合わせ
熊本県地域医療支援機構 TEL 096-373-5627
E-mail chikikiryu@kumamoto-u.ac.jp
HP http://www.chikikiryu-kumamoto.org/



開会のあいさつ
熊本県地域医療支援機構理事長
熊本大学病院
谷原 秀信 病院長



富山大学附属病院 総合診療部
山城 清二 教授

山城先生からは、大学病院での取組みから始まり、地域でしかできない人を育てる仕組みづくり、南砺市での実践的な活動のお話がありました。また、デザインの理論を取り入れた思考法、富山市まちなか総合ケアセンターの紹介もあり、興味深い講演内容でした。

今回はテレビ会議システムを利用し、天草市の河浦病院との間で、実況中継を行いました。



閉会のあいさつ
熊本県地域医療支援機構副理事長
熊本県健康福祉部
迫田 芳生 医監

2019年11月25日金曜日 18:30～19:40

令和元年度熊本県地域医療支援機構講演会

「社会的ニーズに対応した総合診療医の育成」

この数年の間に地域医療に係る制度改革や計画の策定が次々に行われてきました。地域医療構想の策定、医療法等の改正、第7次熊本県保健医療計画の策定等が行われ、現在地域医療対策協議会では医師確保計画の検討が行われています。その計画では、医師の地域偏在の解消に向け将来の地域医療の姿を描きながら医師の育成や確保等について定めていくこととされています。

そのような中で、地域医療の人材育成に当たる大学をはじめ関係機関の役割には大きなものがあります。そこで、地域社会と連携した総合診療医の育成に取り組まれている、富山大学の山城先生に御講演いただき、地域医療にあたる医師育成について考える機会として、今回の講演会を開催しました。

熊本県女性医師キャリア支援センターでは、①復職支援 ②短時間勤務 ③育児支援 ④メンター制度 ⑤セミナー（啓発活動）を5つの柱にキャリア支援を進めることが重要と考え活動しています。

- マタニティ白衣の貸出
- 学童保育のニーズ調査
- お留守番医師制度
- 広報活動（ホームページ、テレビ、雑誌掲載、チラシの作成等）
- メンター制度、メンター連絡会議
- 学会・講演会などでの発表、情報交換
- キャリア支援セミナー
- 学生への啓発活動として、「医学生・研修医等をサポートするための会」開催や、1学年・4学年への講義
- クローバーセミナー

◆ 相談業務

熊本県女性医師キャリア支援センター（熊本大学病院内に設置、専任医師1人、コーディネーター1人）が相談窓口。

◆ 相談件数

2019年度（2019年4月1日から2019年1月31日まで）は総計74名から相談や制度のお問い合わせがありました。うち29名が男性で、「お留守番医師制度について」「求人のお問い合わせ」「ネットワークづくり」に関する問い合わせが多く、45名が女性で、「お留守番医師制度について」「保育施設について」の相談が多くありました。

相談の総内訳（延べ相談数）

2019年4月1日～2020年1月31日 ▼

お留守番医師制度について	17
働くこと働き方についての相談	2
求人の問い合わせ	11
保育施設について	11
支援制度についての問い合わせ	6
ネットワークづくり	14
復職相談	3
メンター制度について	1
同僚・医局の医師について	3
子育てについて	0
社会保障等について	1
マタニティ白衣・パンツについて	5

◆ マタニティ白衣、マタニティパンツの貸し出し

今年度2月末時点での利用者は6名でした。今後も妊娠中から気軽にご相談できる雰囲気づくりに努め、是非多くの医師にご利用いただきたいと思います。（白衣はSサイズ10着、Mサイズ10着。スクラブパンツは平成29年5月作成、Mサイズのみ10着あり。）



◆ 育児支援

山都町包括医療センターそよう病院において院内で子育てを援助する仕組み（病院職員OBや地域住民が子育てサポーターとして保育に協力してくれるシステム）「そよ風サークル」を設立。今年度も、そよう病院「子育て勉強会」のコーディネート協力などを通して、設立に向けた必要な支援を行いました。

◆ お留守番医師制度

「お留守番医師制度」では、家庭との両立や自身の健康などに不安を抱える方にも復職しやすい環境の協力機関（現在20医療機関）と連携しています。復職希望医師にとっては週1回（場合によっては月1回も可）からの復職が可能で、在宅医療を開始したい医療機関にとっては代診医師の確保につながり、地域住民にとっては、かかりつけ医の訪問診療を受けることが可能になるwin-win-winの互助システムです。熊本県女性医師キャリア支援センターの復職コーディネーターが復職希望者の体験申し込みを受けて、在宅医療を開始したいドクターとつなぎ、体験日を決めます。体験がうまくいけば、当事者同士で3か月更新の雇用契約を結びます。

この制度で勤務中には、熊本市医師会保育所「メディッククラブ」が無料で利用できます。

今年度は1名の医師がこの制度を利用し復職されました。その他、昨年度からの継続4名 体験のみ1名合わせて5名がお留守番医師制度を利用中です。



診療所の先生方
訪問診療時間に「お留守番Dr」システムを利用してみませんか？

かかりつけの患者さんの訪問診療をお断りされたことはありませんか？
訪問診療に割く時間がないし、
ましてやもう一人医師を雇う経済的な余裕なんて・・・

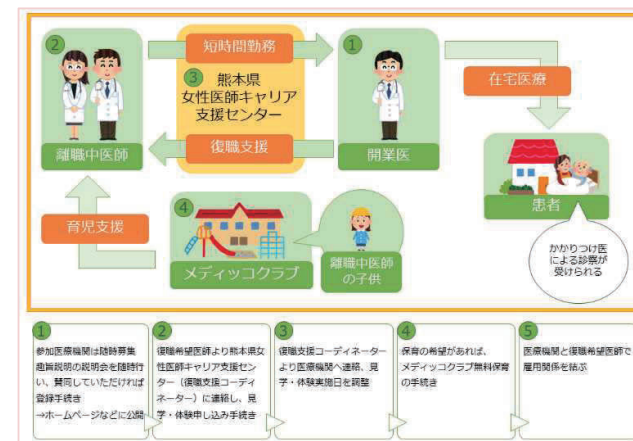
解決策です

長年培われた先生と患者さんの関係をそのまま継続し、
患者さんの自宅に赴く訪問診療に取り組みたいは
いかがでしょうか？

貴院の外来診療に協力してみようと思っている医師に、
医療機関の情報を開示し、まずは体験の機会を得て頂く
システムです。
条件が合えば外来診療の協力が繋がります。

県下各地域で同ったお話を元に、在宅医療へ取り組む医師への応援団として、
この事業を企画しました。
県内どこへでも、詳しい説明に参ります。地域の先生方にもお声がけいただければ幸いです。

お問い合わせ：熊本県地域医療支援機構（熊本大学医学部附属病院地域医療支援センター内）
TEL:096-373-5795
メールアドレス：k-joseishi@kumamoto-u.ac.jp
復職支援コーディネーター 高塚 貴子



お留守番医師制度に加入している医療機関
(2020年2月28日時点) ▼

熊本市東区	平山ハートクリニック
熊本市南区	土井内科クリニック
熊本市南区	御幸病院
熊本市北区	清藤クリニック
熊本市北区	なかむらファミリークリニック
阿蘇郡	阿蘇立野病院
菊池市	宮本内科クリニック
荒尾市	西原クリニック
玉名市	ひがし成人・循環器内科クリニック
玉名市	河野医院
上益城郡	益城なかぞのクリニック
上益城郡	谷田病院
上益城郡	山地外科胃腸科医院
宇土市	宇土中央クリニック
水俣市	山田クリニック
宇城市	済生会みすみ病院
熊本市中央区	明牛橋内科クリニック
熊本市北区	まえだクリニック
菊池市	菊池郡市医師会立病院
宇城市	中村医院

◆ 広報活動

- ホームページ、携帯サイトの運営をしています。
- ホームページでは、復職支援、短時間勤務、育児支援、メンター制度、セミナー情報、求人情報（HP掲載28件）マタニティ白衣の貸出、相談窓口、介護情報などを掲載しています。
- Facebook及びTwitterネットワークによる情報交換・情報の共有を図っています。
- 「熊大通信」、「くまにちすばいす」に熊本県女性医師キャリア支援センターの取組についての記事が掲載されました。
- パンフレット2000枚作成（A4版：1000枚、3つ折り版：1000枚）し、相談者や各種セミナー、授業の際に医学部生へ配布しました。
- 熊本県女性医師キャリア支援センター/熊本県地域医療支援センターの名称入り手提げ袋を各種セミナーで配布しました。



◆ 学会・講演会での発表、情報交換

- 第10回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会（R1.5.17～19）シンポジウムパネリスト「ずっと働きたい職場を目指して」
- 第6回九州山口家庭医療・総合診療セミナー（R1.6.30）講演「女性医療者としてキャリアを考える」
- 熊本市公的病院等地域連携協議会（R1.8.20）講演「医療人の働き方改革を進めるために」
- 令和元年度自治医科大学熊本県人会総会（R1.10.12）シンポジウムシンポジスト「これからのへき地医師・女性医師の支援について」
- 女性医師支援センター事業九州ブロック会議（R1.10.19）報告「地域でも活躍できる環境の好事例」
- 第8回西予市オイネ賞事業表彰式 日本医師会女性医師支援シンポジウム（R1.11.30）受章者・シンポジウムシンポジスト



◆ 学生への啓発活動

- 1学年講義： R1.7.8 医学概論「男女共同参画」
- 4学年講義： R1.5.15 医療と社会Ⅰ「男女共同参画」
- 熊本県医師会主催 令和元年度 医学生・研修医をサポートするための会「やりたいことをあきらめない！Dr.Yukaのフィジカルアセスメントレッスン」の共催

◆ 女性医師キャリア支援に関するネットワークの構築

- 熊本県地域医療支援機構、熊本県医師会男女共同参画委員会、熊本市医師会女性医師キャリア支援センター、熊本大学病院男女共同参画推進委員会で協力して組織した「熊本県医療人キャリアサポートの会（クローバーの会）」の活動において、各機関が連携して講演会やセミナーなどの啓発活動、短時間勤務制度の有効活用などのための相談業務、育児支援等を実施し、女性医師の勤務の継続、円滑な職場復帰等を進めています。
- 地域枠医師の受け入れ先となる知事指定医療機関についても、女性の地域枠医師の勤務が増えることが確実なことから、各種セミナーへの参加等を強く促して、女性医師の働き方や職場環境においてさらなる配慮の必要性を理解いただくよう促しています。
- 今後、知事指定病院等状況調査の結果を踏まえて、女性医師のキャリア形成と働き方について、勤務環境改善センターとも連携して、女性医師が働きやすい、安心して子育てのできる環境の中でキャリア形成が図られる環境づくりを進めていきます。

◆ メンター制度

メンター制度とは、キャリアについて、ワークライフバランスについて、先輩に悩みを聞いてもらい、一緒にキャリアやライフの目標設定を考えてみる取り組みです。気軽に取り組めるよう、メンター・メンティの関係性は1年間限定とし、希望があればさらに1年間延ばすこととしています。

メンターとして現在29人の男女医師が登録しており、メンティとして現在2名の女性医師が登録しています。メンター自身のスキルアップを目的に、今年度は1回「メンター連絡会議」を開催しました。

令和元年5月15日

議題：座談会「日本の男性医師と女性史のアカデミックキャリアの構築にはどのような違いがあるか」

日 時 2019年5月15日（水）11：30～14：30

場 所 熊本大学病院 山崎記念館1階会議室

座談会メンバー：

九州中央リハビリテーション学院 学院長 河野 文夫 先生

広島大学大学院医系科学研究科教授 医学教育センター副センター長 蓮沼 直子 先生

熊本大学大学院生命科学研究部 法医学分野 教授 西谷 陽子 先生

熊本大学病院地域医療支援センター助教 後藤 理英子 先生

◆ クローバーセミナー



2020年2月7日金曜日 19:00～21:00

熊本県医療人キャリアサポートクローバーセミナー

「医療人がOne Teamで働くために」

クローバーの会（熊本県医療人キャリアサポート）では、女性医師キャリア支援の観点から、男女共同参画推進活動にも積極に取り組んでいます。今回のセミナーでは、熊本県における取り組みをご紹介しますとともに、下記の先生方に、女性医療人の復職の壁と支援の在り方について管理職や弁護士の立場からご発表とディスカッションをしていただきました。

【出席者：40名】



開催のあいさつ

熊本県地域医療支援機構理事

熊本大学病院 地域医療支援センター 准教授

谷口 純一 先生



1、「クローバーの会活動報告」

国立病院機構熊本医療センター院長 熊本県医師会男女共同参画担当理事

クローバーの会会員

高橋 毅 先生



2、「女性医師支援～ハードとソフトの両面から考える～」

千葉大学病院脳神経内科准教授

医師キャリア支援センター副センター長 三澤 園子 先生

ハード面からの支援である学童保育について、ソフト面からは家庭内の協力についてご講演いただきました。



3、「労働法制を使いこなそう～医療人がOneTeamで働きやすくなるために～」

日本医師会日医総研 主任研究員 上家 和子 先生

労働法制について分かりやすく説明していただき、女性が継続して働くことを阻害する敵はどこにあるのか知識を持つておくことの重要性を感じました。



4、パネルディスカッション「復職の壁を考える」

ふじき法律事務所 弁護士・医師 藤木美才 先生

事例の問題点がどこにあるのか、国の政策の方向性について明らかにしていただきました。

事例1：熊本大学病院 皮膚科 助教 青井 淳 先生

事例2：荒尾市民病院 脳神経内科 部長 大嶋 俊範 先生

事例紹介では復職したくてもできない事例を紹介していただき、部長、医局長のご苦勞が身に沁みました。



閉会のあいさつ

クローバーの会会員

天野整形外科皮膚科 副院長 天野 富紀子 先生



閉会のあいさつ

熊本県医師会男女共同参画委員会 副委員長

みわクリニック 院長 秋月 美和 先生



今回はテレビ会議で熊本市外からもディスカッションに参加していただきました。活発な議論となり有意義なセミナーとなりました。

➤ クローバーセミナーのアンケート結果（一部抜粋）

回答：10名

性別：男性5名 / 女性5名

職業：医師6名 看護師0名 医療関係者1名 その他1名、事務2名

【これまでに復職の壁を感じたことはありますか？】

- ・育児休業から復職すると、入る前と同じ働く環境ではないことが絶対的に多いと思いました。
- ・二人目を出産後、これまでの綱渡りの生活に疲れ一年間育休を取った。
- ・（昔の話ですが）産休明けに復職した際、本人との話し合いなく他の医師と同じように当直を割り当てられていた事。
- ・24時間在宅医療にも従事していた際、妊娠が分かり辞めました。産休、育休制度も知りませんでした。知識が足りなかったと反省。

【職場に必要なOneTeamで働く為の工夫】

- ・託児所やフレックス勤務、自宅勤務など。
- ・女性医師を働きやすくする為の働きかけ。
- ・思いやりで休職した人の事情を考える。
- ・制度の理解、組合活動の認識、職場の意識改革とシステムの導入、業務改善への取り組み。
- ・院内託児、時短勤務、残業保障。

◆ その他セミナー

主催

令和元年度キャリア支援セミナー「あんがーまねじめんと 応用編」

2019年5月14日火曜日 18:30～20:00



広島大学大学院医系科学研究科教授

医学教育センター副センター長

蓮沼 直子 先生

イライラの感情を管理し、適切な問題解決やコミュニケーションに結び付けるため、怒りの沈め方、自分の怒りを相手に理解してもらえるよう伝えるにはどうしたらよいかについて学びを深めました。

参加者【19名】

共催

医学生・研修医をサポートするための会セミナー

「Dr.Yukaのフィジカルアセスメントレッスン」

2019年11月13日水曜日 18:30～20:30



聖マリアンナ医科大学病院

救急救命センター

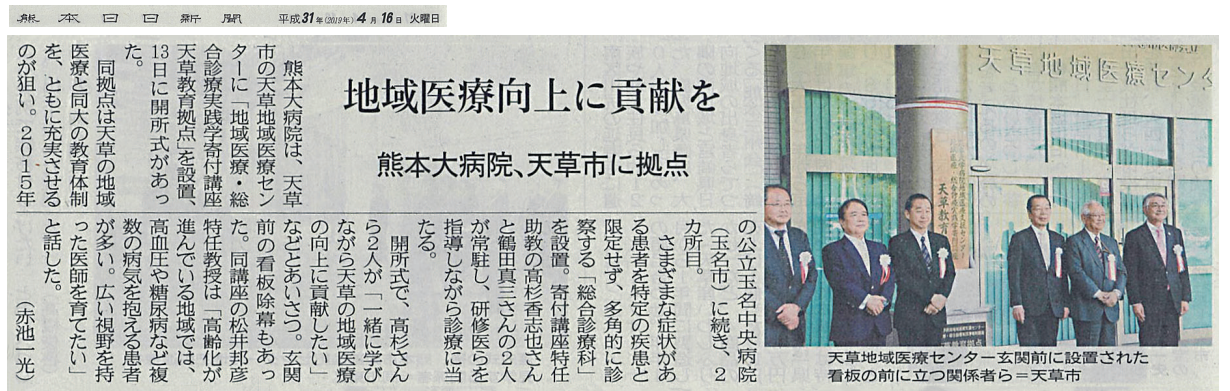
助教 北野 夕佳 先生

医学部生、若手医師が参加しフィジカルアセスメントレッスンをしていただきました。楽しく身になるレッスンで、低学年から現役の医師まで、明日から使えるよりスピーディーに正確な診断に導くことができる診察方法を学びました。

参加者【15名】

4. そのほか

◆ 新聞記事



令和2年1月31日（金）くまにち すばいす掲載

気になるあの人にインタビュー

Kumamoto
すてきびと
Wonderful Person

熊本県女性医師キャリア支援センター専任医師
後藤理英子さん
Rieko Goto

プロフィール
1978年、和歌山県生まれ。2001年に熊本大学医学部を卒業後、同大学代謝内科入局。同年、結婚。翌年に長男を出産。14年から現職。19年愛媛県西予市主催の「第8回西予市おイネ賞」全国奨励賞受賞。夫と小学3年の次男と熊本市内で暮らす。

結婚、出産後の女性医師をサポート
生き生きと働ける現場を増やしたい

女性医師の復職・就業継続支援に力を注ぐ後藤さんは大学病院入局後すぐに結婚、出産しました。「現場を離れ育児をしている間、医師として置いていかれるのではないかと焦りを抱える毎日でした」。出産後2カ月で一度、復職したものの、フルタイム勤務や当面ができないと臨床で勤務を続けることは難しいと身をもって経験しました。

その後、大学病院の代謝内科の研究員として仕事を続けながら「もっと女性医師が生き生きと活躍できる場を広げたい」と、院内にある県女性医師キャリア支援センターにも2014年から所属。同じ境遇に似む女性医師に短時間勤務が可能な病院を紹介するほか、キャリア支援に関するセミナーや育児支援の情報提供を行ってきました。

この実績が認められ昨年、日本初の産科女医・楠本イネの偉業を顕彰し医療分野で活躍する女性を表彰する「西予市おイネ賞」の全国奨励賞を受賞。目指していた博士号と総合内科専門医の資格も取得し、「女性医師が現場でアカデミックキャリアを積んで行けるような支援をさらに充実させたい」と語ります。

Time Schedule
6:00 起床 20:00 子どもを預けているシルバーさんへの迎え
8:00 外来の病院へ 12:30 昼食
13:30 医大で課会議 20:30 夕食
19:30 終業 22:00 就寝

復職希望の女性医師のための相談窓口
HP(<http://kumamoto-joseishi.jp>) 問診センター☎096(373)5795

公益社団法人 日本医師会
女性医師支援センターから

「第8回西予市おイネ賞事業表彰式・日本医師会女性医師支援シンポジウム」開催のご報告

令和元年11月30日（土）に愛媛県西予市宇和文化会館にて「第8回西予市おイネ賞事業表彰式・日本医師会女性医師支援シンポジウム」が開催されました。

西予市おイネ賞事業は、日本初の産科女性医師でシーボルトの娘「楠本イネ」の偉業を顕彰し、その志を継ぎ、女性医師を奨励することで社会における女性の活躍推進を図り地域活性化につなげることを目的に平成24年度に創設されました。

第1部では、医療活動や医学研究に活躍する女性医師や女子医学生の表彰が行われ、本年度は日医推薦の後藤理英子先生が「全国奨励賞」を受賞された他、2名の方が受賞し、表彰されました。

【受賞者】
「全国奨励賞」
熊本大学病院地域医療支援センター
特任助教 後藤 理英子 氏
「地域奨励賞」
愛媛大学大学院医学系研究科小児科学講座
教授 江口 真理子 氏
「医学生奨励賞」
愛媛大学医学部 医学科
5年生 武田 遥奈 氏

西予市では「平成30年西日本大雨災害」からの復興を目指し、強い思いをもって歩みを進めています。そこで第2部の女性医師支援シンポジウムでは、「復興元年もっと元気に もっと素敵に」をテーマとし、市民講座では順天堂大学医学部教授・東京都医師会理事・スポーツ庁参与の小林弘幸先生が、「健康の正体～自律神経と腸内環境を整えて毎日元気ノ～」と題し、ゆっくり生きることの重要性を講演。また基調講演では、横倉義武会長が「健康な社会を作ろう」と題し、医師会の役割を語るとともに、明るい健康長寿社会に向けた見解を説明しました。

同時に開催されたパネルディスカッションでは、今回おイネ賞を受賞された3名と過去の受賞者3名で「医療界の男女共同参画～女性医師の働き方～」について意見交換を行いました。

当日は市民の皆様、医療関係者を合わせ約600名にご来場頂き、大変盛況のうちに幕を閉じました。

医師の求人・求職は
日本医師会女性医師バンク <https://www.jmawdbk.med.or.jp/>

登録件数 求職者数1,431人（累計）、求人施設数5,589施設（累計）、就業決定及び再研修紹介1,013件（累計）（令和元年11月30日現在）

問い合わせ先 女性医師支援センター（女性医師バンク）
☎ 03-3942-6512 国 info-bank@jmawdbk.med.or.jp

REPORT 熊本大学病院地域医療支援センターの後藤理英子特任助教が第8回西予市おイネ賞を受賞しました

11月30日(土)に愛媛県西予市で開催された第8回西予市おイネ賞事業表彰式において、後藤理英子熊本大学病院地域医療支援センター特任助教が全国奨励賞を受賞されました。

愛媛県西予市、日本医師会、愛媛県医師会が主催する同事業は、シーボルトの娘「楠本イネ」の偉業を顕彰し、現代女性の活躍推進や地域の活性化を図ることを目的としており、その志を継ぎ医学研究や医療活動に活躍する女性を対象に表彰・激励されているものです。

後藤特任助教は、子育てをしながら臨床・研究の仕事を継続し、また、その経験を活かして熊本県女性医師キャリア支援センターや熊本大学病院において男女共同参画を推進しています。女性医師・女性研究者が能力を発揮できるための環境づくりに尽力しているこれらの業績が評価され、今回の受賞に繋がりました。



第8回西予市おイネ賞受賞者(左が後藤特任助教)

③ 地域医療・総合診療実践学寄附講座

1. 活動概要

「地域医療・総合診療実践学寄附講座」

は、平成27年度末に廃止された「地域医療システム学寄附講座」の後継として平成28年4月1日に設置され、本年度が最終年度となっていました。これまで3年間の実績に基づき、さらに延長されることになりました。

同講座は、これまでの医師循環システムに関する調査研究や地域医療実習教育に関する調査研究等の成果を踏まえ、「医学生や若手医師への卒前からの一貫した地域医療教育」「総合診療医の育成」「地域医療実践教育拠点の運営」など、地域医療を志す医師の養成を目指して、より実践的な取り組みを進めています。具体的には、熊本大学医学部医学科学生（熊本県医師修学資金貸与学生を含む。）や若手医師に対して、卒前からの一貫した地域医療教育を通した、地域医療マインドの涵養に取り組んでいます。また、今後地域医療への貢献が期待される総合診療専門医の育成において、玉名と天草の医療機関に総合診療の教育拠点を設置するとともに、医師の不足する地域の医療機関に対して診療支援を行っています。

【主な内容】

- ① 地域医療支援（診療支援）
- ② 調査・研究
- ③ 教育活動
 - ・卒前教育（カリキュラム内教育）
 - ・卒後教育
 - ・初期臨床研修
 - ・専門研修
- ④ 指導医養成
- ⑤ 講演会

2. 年間活動実績

月	日	行事
4	13	天草教育拠点開所式 第8回レジデントデイ
5	17 18-19	クリクラ⑪振り返り会 第10回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会
5/31-6/1		熊本臨床研究ワークショップ
6	7 28	クリクラ⑫振り返り会 クリクラ⑬振り返り会
7	13 19	第9回レジデントデイ クリクラ①振り返り会
8	16-17	夏季地域医療特別実習
9	6 12 27	クリクラ②振り返り会 クリクラ⑭振り返り会 第16回総合診療グラウンドラウンド クリクラ③振り返り会
10	18 21	クリクラ④振り返り会 生涯教育研修セミナー
11	8 29	クリクラ⑤振り返り会 クリクラ⑥振り返り会
12	20 28	クリクラ⑦振り返り会 第10回レジデントデイ
1	24	クリクラ⑧振り返り会
2	14	クリクラ⑨振り返り会
3	6	クリクラ⑩振り返り会

3.活動報告

① 地域医療支援（診療支援）

大学病院においては、「総合診療科」の外来診療を月曜日から金曜日まで実施し、専門診療科以外の受診を目的とした初診患者を中心に診療を行いました。また、大学病院の救急外来診療等も担当しました。

玉名教育拠点にては、「総合診療科」の外来および病棟診療を行いました。また同院の救急診療にも携わりました。その他の熊本県内の医師が不足している病院に対し、県からの要請に基づき、診療支援活動を行いました。

◆ 大学病院 総合診療外来

月	火	水	木	金
谷口	松井	高柳	佐土原	前田
			谷口（2019.9～2020.3 奇数週）	

◆ 学外診療支援

松井	2019.4～2020.3 公立玉名中央病院（週1回）
佐土原	2019.4～2020.3 阿蘇医療センター（週1回） 2019.4～2020.3 そよう病院（週1回）
前田	2019.4～2020.3 上天草総合病院（奇数週、週1回）

Ⅱ 調査・研究

◆ 地域医療実習教育に関する調査研究

医学科3年次学生に対する地域医療実習（早期臨床体験実習Ⅲ）については、今年度より各受入先施設の実習計画を学生に事前提供出来るよう、実習協力施設に対し実習計画調査表を送付し実習内容の調査を行いました。また、本年度から必修化された5・6年次学生に対する地域医療実習（クリニカルクラークシップ）に関しても、旧5年生の13ターム終了後に、実習協力先14施設に対し、実習に対するアンケートを行い、現状の把握及び更により良い実習となるよう調査・確認を行いました。

◆ 総合診療専門医普及に関する調査研究

「熊本大学総合診療専門研修プログラム」については、プログラムの変更申請に際し、プログラム内容の更新及び充実のため、研修内容、施設情報、指導医の有無の調査を行いました。また、総合診療専門医の特任指導医講習会の受講状況を調査し、これまで専攻医が研修した連携施設は講習会を受講済みもしくは本年度受講予定の指導医が在籍しており、総合診療専門医の研修施設の要件を満たしていることが分かりました。

◆ 医療機関の勤務環境に関する調査研究

県内の医療機関の勤務環境について、熊本県地域医療支援機構と連携して調査・研究を行いました。調査結果は医師修学資金貸与医師が勤務先を選択際の資料として活用することになっています。また、女性医師キャリア支援センターと連携して、子育てと仕事の両立等に関するアンケート調査を行い、活動の方向性について検討を行いました。

◆ 教育拠点に関する調査研究

玉名教育拠点については、拠点及び総合診療科が設置され3年経過し、これまでの取組みと成果について同病院で調査研究が行われ、当講座でも協力支援しました。天草地域医療センターに平成31年4月に設置した天草教育拠点については、熊大病院との連携課題についての調査を行いました。

Ⅲ 教育活動

◆ 卒前教育（カリキュラム内教育）

地域医療システム学寄附講座を設置以来、これまでも医学科カリキュラムの実施に協力してきましたが、昨年度から、地域医療・総合診療実践学寄附講座として、医学科長からの正式な依頼に基づき、以下の実習および講義を行いました。なお、熊本県地域医療支援センターへの依頼があった講義（※）も、一緒に記載しています。

1年生	・ 早期臨床体験実習Ⅰ ・ 医学概論※	4年生	・ 医療と社会Ⅰ ・ 総合診療学	・ 臨床実習入門 ・ チュートリアル
2年生	・ 早期臨床体験実習Ⅱ ・ 医学英語	5年生	・ 特別臨床実習	
3年生	・ 早期臨床体験実習Ⅲ ・ 公衆衛生学	6年生	・ 特別臨床実習	

行動科学Ⅰ		1年生
2019/7/1	谷口【コミュニケーション】	
2019/7/8	後藤【男女共同参画】	
2019/7/18	谷口・高野【喫煙と社会】	

現代社会と医学B		1年生
2018/7/12	谷口・田宮【地域中核病院から見た地域医療】	
2018/7/19	谷口・片岡【熊本県の地域医療について】	

医学英語		2年生
2019/11/6	佐土原【腫瘍医学】	
2019/11/13	小山【プライマリケア】	

早期臨床体験実習Ⅰ		1年生
2019/9/9	松井【オリエンテーション】	
2019/9/10 - 2019/9/13	松井【施設での実習】	
2019/9/26	松井【ECE1発表会1】	
2019/10/3	松井【ECE1発表会2】	

① 早期臨床体験実習Ⅰ・Ⅱ（ECE1・2）

早期臨床体験実習Ⅰは1学年を対象とし、Ⅱは2学年を対象として、5年前に改正された新カリキュラムに基づき必修科目として実施されているものであり、Ⅰは従来から実施していた「早期社会体験実習」の名称を変えて、またⅡは3年間の早期臨床体験実習の中間に位置付けているものである。

早期臨床体験実習Ⅰについては、臨床医学教育研究センターが実施責任者となり、当講座が協力する形で9月9日～13日の5日間に渡り実施された。初日の午前、大学において導入・オリエンテーションを実施し、その後県内の28施設（心身障害児（者）施設、慢性疾患療養施設、老人保健施設、特別養護老人ホーム、療養型病院等）で1年生116人が実習を行った。

また、実習後は、9月26日、10月3日の2回に分けてグループ毎に発表会を行った。
なお、2月27日～3月4日に実施予定だった早期臨床体験実習Ⅱについては、新型コロナウイルスの影響により中止となった。

公衆衛生学		3年生
2019/6/28	中本【地域医療行政関係】	
2019/6/28	佐土原【その他の医療制度の現状と今後】	
2019/7/2	高杉【地域医療、特にへき地医療】	
2019/7/2	高柳【プライマリ・ケア関係】	

医療と社会Ⅰ		4年生
2019/5/15	後藤・蓮沼【男女共同参画】	
2019/5/27	谷口・高野【行動科学・禁煙】	
2019/6/19	谷口・下地【医療人類学】	

総合診療学		4年生
2019/4/16	谷口【医療のプロセスと医療面接総論】	
2019/4/17	谷口【医療面接各論1・2】	
2019/5/7	佐土原【身体診察概論】	
2019/5/14	田宮【臨床推論概論】	
2019/5/21	高杉【臨床推論演習1】	
2019/5/28	前田【臨床推論演習2】	
2019/6/4	鶴田【臨床推論演習3】	
2019/6/11	小山【臨床推論演習4】	
2019/6/18	松井【総合診療概論】	

チュートリアル実習		4年生
2019/10/9	谷口【Narrative-based Medicine】	
2019/10/10	谷口・清藤【物語医療】	

臨床実習入門		4年生
2019/9/4	谷口【医療面接】	
2019/9/9	谷口【医療面接】	
2019/9/11	前田【医療面接】	
2019/9/13	谷口【医療面接】	
2019/9/18	松井【医療面接】	

プレ臨床実習		4年生
2018/10/28	谷口【カルテの書き方】	

早期臨床体験実習Ⅲ		3年生
2019/11/29	高柳【オリエンテーション】	
2019/12/2 - 2019/12/6	高柳【学外実習】	
2019/12/6	高柳【振り返りグループワーク】	

➤ 早期臨床体験実習Ⅲ 指導医ワークショップ

【日 時】2019年11月6日（水）、14日（木）
【場 所】熊本大学大学院生命科学研究部附属臨床医学教育研究センター 奥窪記念ホール
【内 容】
・実習概要・目的について
・ログブック・評価について
・実習詳細について

② 早期臨床体験実習Ⅲ（ECEⅢ）
早期臨床体験実習Ⅲは、早期臨床体験実習Ⅰ（1学年対象）及び早期臨床体験実習Ⅱ（2学年対象）に続く完結版として、また上位学年で実施される臨床実習への基礎入門編として3学年を対象に必修として実施されるものである。
平成26年度入学の学生から適用される新カリキュラムに基づき、当講座が実施している。

今年度は、12月2日～6日の5日間に渡り、県内の90医療機関の協力を得て、3年生全員（119人）が実習を行った。また、9月17日に学生オリエンテーション、実習前週金曜日(11月29日)の午後に導入を行い、週明け月曜日には朝から実習に携われるよう日程の見直しを行った。最終日6日の午後から振り返りを大学内において実施した。
また、実習実施に当たっては、11月6日及び14日の両日に分けて、実習受入施設の55施設の指導医及び担当事務60名を集め、FD講習会を開催して実習の指導徹底を図った。
今年度より学生が実習先の選定材料となるよう、事前に実習協力施設128施設に対し「実習計画調査票」の作成を依頼し、1週間の実習計画についての調査・聞き取りを行った。

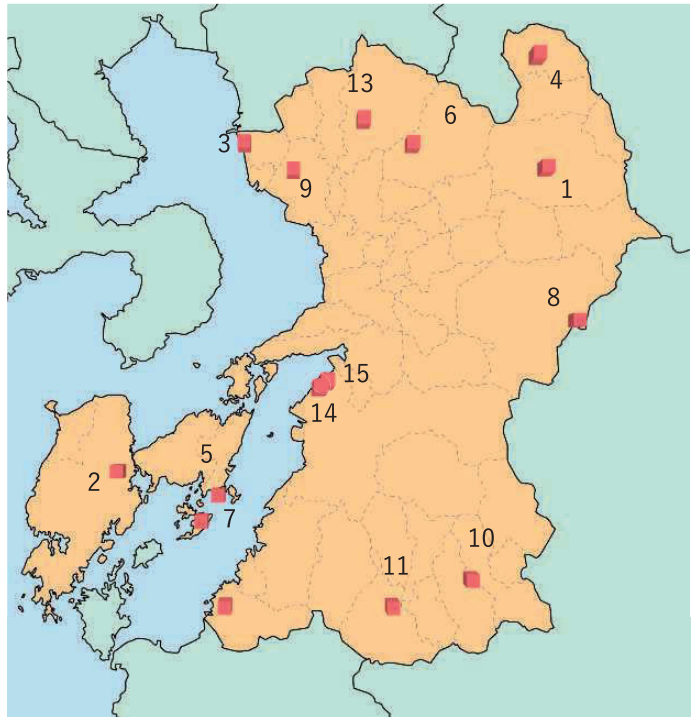
特別臨床実習（クリクラ：クリニカルクラークシップ）	5年--6年生
授業の目的：診療チームに参加し、その一員として診療業務を分担しながら医師として最低限必要な医学知識、臨床推論、臨床判断・技能・態度などの能力を身につけることを目標とする。 授業の概要： 現在、5学年7月から6学年の9月までの全15ターム（1タームは3週間）で実施されている特別臨床実習(13タームまでは5年次の必須科目。14・15タームは6年次の選択科目)において、当講座は、平成26年度から地域医療を提供している。	

➤ 各医療機関の特別臨床実習「地域医療」および「総合診療＊」における学生受け入れ人数

No.	施設名	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	累計
1	阿蘇医療センター	--	--	--	2	3	1	8	14
2	天草地域医療センター	--	--	--	5	5	12	13	35
3	荒尾市民病院	--	--	--	--	5	9	10	24
4	小国公立病院	4	8	9	3	6	4	4	38
5	上天草総合病院	3	10	13	4	0	2	6	38
6	菊池郡市医師会立病院	--	--	--	--	2	7	6	15
7	御所浦診療所	--	--	--	5	2	4	5	16
8	そよう病院	4	4	13	4	0	4	6	35
9	公立玉名中央病院	--	--	5	17	16	4＊	15＊	57
10	公立多良木病院	1	0	0	6	2	5	11	25
11	人吉医療センター	--	8	19	7	7	20	9	70
12	水俣市立総合医療センター	--	--	--	6	5	9	10	30
13	山鹿市民医療センター	--	--	--	--	5	8	11	24
14	熊本総合病院	--	--	--	--	--	7	13	20
15	熊本労災病院	--	--	--	--	--	10	11	21
	合計	12	30	59	59	58	106	138	462

◆ 特別臨床実習：地域医療

5学年夏から6学年秋までの全15ターム（1タームは3週間。13タームまでは5年次の必須科目。14・15タームは6年次の選択）で実施される特別臨床実習において、当講座は平成26年度から地域医療を提供しています。今年度は県内の14医療機関の協力を得て、7月から10タームを実施し、5年生79人に対し地域医療実習を提供しました。毎ターム最終金曜日の15時より、各施設で実習を行った学生を集めての振り返り会を行いました。また、4月には5学年のガイダンスにて学生向けの説明会を実施しました。



➤ 2019-2020年度 特別臨床実習「地域医療」の受け入れ人数

No.	実習受入先	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	合計
		2019 7/1	2019 8/19	2019 9/9	2019 9/30	2019 10/21	2019 11/11	2019 12/2	2020 1/6	2020 1/27	2020 2/17	2020 4/20	2020 5/ 18	2020 6/8	
		7/19	9/6	9/27	10/18	11/8	11/29	12/20	1/24	2/14	3/6	5/15	6/5	6/26	
1	阿蘇医療センター	1			1						1			1	4
2	天草地域医療センター	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	13
3	荒尾市民病院			1	1	1	1		1	1	1	1	1	1	10
4	小国公立病院	1			1						1			1	4
5	上天草総合病院			1		1				1	1	1	1		6
6	菊池郡市医師会立病院		1		1		1	1		1	1				6
7	御所浦診療所		1		1		1				1			1	5
8	そよう病院	1					1	1				1	1	1	6
9	公立多良木病院	1	1			1	1	1	1	1	1	1	1	1	11
10	人吉医療センター	1	1	1	1	1			1	1	1		1		9
11	水俣市立総合医療センター		1	1		1	1	1	1	1		1	1	1	10
12	山鹿市民医療センター	1	1	1	1		1	1	1	1		1	1	1	11
13	熊本総合病院	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	13
14	熊本労災病院	1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		11
	合計	9	8	8	10	8	10	8	8	10	11	9	10	10	119

➤ 診療所・病院のスケジュール例

人 吉 医 療 セ ン タ ー					
	月	火	水	木	金
1 週 目	➤オリエンテーション ➤総合診療、救急センター ➤総合診療	➤がんサージボード ➤小児科	➤プライマリケアカンファレンス ➤病棟回診 ➤訪問看護 ➤訪問診療	➤五木村診療所	➤外科合同カンファレンス ➤総合診療 ➤救急センター ➤訪問診療 ➤訪問看護
2 週 目	➤モーニングレクチャー ➤ドクターズ会、病棟回診 ➤総合診療 ➤救急センター	➤五木村診療所	➤プライマリケアカンファレンス ➤病棟回診 ➤病棟回診 ➤選択診療科での実習	➤プライマリレクチャー ➤病棟回診 ➤選択診療科での実習	➤外科合同カンファレンス ➤訪問診療
3 週 目	➤モーニングレクチャー ➤ドクターズ会、病棟回診 ➤選択診療科での実習	➤五木村診療所	➤プライマリケアカンファレンス ➤病棟回診 ➤病棟回診 ➤総合診療・化学療法外来 ➤訪問看護またはリンパ浮腫外来	➤プライマリレクチャー ➤病棟回診 ➤選択診療科での実習 ➤総合診療・救急センター	➤外科合同カンファレンス ➤総合診療・救急センター ➤まとめ

選択診療科：小児科、産婦人科、代謝内分泌内科（外来）、外科、整形外科、その他希望診療科

御 所 浦 診 療 所					
	月	火	水	木	金
1 週 目	➤朝礼 ➤眼科外来/総合診療外来 ➤総合診療外来	➤朝礼 ➤検査 ➤総合診療外来 ➤船で横浦へ移動 ➤外来 ➤外来終了後に訪問診療 ➤御所浦島に帰島	➤朝礼 ➤整形外科外来/総合診療外来	➤朝礼 ➤検査 ➤総合診療外来 ➤船で横浦へ移動 ➤外来 ➤外来終了後に訪問診療 ➤御所浦島に帰島	➤朝礼 ➤検査 ➤総合診療外来 ➤スタッフミーティング ➤総合診療外来/訪問診療 ➤振り返り・次週の予定確認
2 週 目	➤朝礼 ➤眼科外来/総合診療外来 ➤総合診療外来	➤朝礼 ➤検査 ➤総合診療外来 ➤船で横浦へ移動 ➤外来 ➤外来終了後に訪問診療 ➤御所浦島に帰島	➤朝礼 ➤整形外科外来/総合診療外来	➤朝礼 ➤検査 ➤総合診療外来 ➤船で横浦へ移動 ➤外来 ➤外来終了後に訪問診療 ➤御所浦島に帰島	➤朝礼 ➤検査 ➤総合診療外来 ➤スタッフミーティング ➤総合診療外来/訪問診療 ➤振り返り・次週の予定確認
3 週 目	➤朝礼 ➤眼科外来/総合診療外来 ➤総合診療外来	➤朝礼 ➤検査 ➤総合診療外来 ➤船で横浦へ移動 ➤外来 ➤外来終了後に訪問診療 ➤御所浦島に帰島	➤朝礼 ➤整形外科外来/総合診療外来	➤朝礼 ➤検査 ➤総合診療外来 ➤船で横浦へ移動 ➤外来 ➤外来終了後に訪問診療 ➤御所浦島に帰島	➤朝礼 ➤検査 ➤総合診療外来 ➤スタッフミーティング ➤振り返り（個人で）その後 総括

◆ 特別臨床実習：総合診療科

この実習は救急・総合診療部の実習ではなく、地域医療・総合診療実践学寄附講座として独立した「総合診療科」の実習となり、地域医療実習から離れた玉名教育拠点を中心に、3週間の選択実習を行いました。
今年度は、大学病院及び玉名教育拠点の2か所で合計18人の実習を提供しました。

公 立 玉 名 中 央 病 院					
	月	火	水	木	金
1 週 目	➤病棟回診 ➤外来研修 ➤外来レビュー ➤病棟研修 ➤新患カンファレンス ➤自己研修	➤モーニングレクチャー ➤訪問看護 ➤外来レビュー ➤多職種カンファレンス ➤病棟回診 ➤振り返り ➤自己研修	➤プライマリケアレクチャー ➤病棟回診 ➤外来研修 ➤訪問診療or緩和ケア回診or病棟研修 ➤振り返り ➤自己研修	➤病棟回診 ➤外来研修 ➤外来レビュー/各種講義 ➤病棟研修 ➤振り返り ➤自己研修	➤病棟回診 ➤訪問診療 ➤病棟研修 ➤週間振り返り ➤自己研修
2 週 目	➤病棟回診 ➤外来研修 ➤外来レビュー ➤病棟研修 ➤新患カンファレンス ➤自己研修	➤モーニングレクチャー ➤病棟回診 ➤外来研修 ➤外来レビュー ➤多職種カンファレンス ➤振り返り ➤自己研修	➤プライマリケアレクチャー ➤病棟回診 ➤外来研修or訪問看護 ➤訪問診療or緩和ケア回診or病棟研修 ➤振り返り ➤自己研修	➤病棟回診 ➤外来研修 ➤外来レビュー/各種講義 ➤病棟研修 ➤振り返り ➤自己研修	➤病棟回診 ➤訪問診療 ➤病棟研修 ➤週間振り返り ➤自己研修
3 週 目	➤病棟回診 ➤外来研修 ➤外来レビュー ➤病棟研修 ➤新患カンファレンス ➤自己研修	➤モーニングレクチャー ➤病棟回診 ➤外来研修 ➤外来レビュー ➤多職種カンファレンス ➤振り返り ➤自己研修	➤プライマリケアレクチャー ➤病棟回診 ➤外来研修 ➤訪問診療or緩和ケア回診or病棟研修 ➤振り返り ➤自己研修	➤病棟回診 ➤外来研修 ➤外来レビュー/各種講義 ➤病棟研修 ➤ジャーナルクラブ	➤病棟回診 ➤訪問診療 ➤週間振り返り ➤自己研修

◆ 卒後教育

① 初期臨床研修

熊大病院群初期臨床研修プログラムで総合診療科（大学病院）及び総合診療科（玉名拠点）を選択した初期臨床研修医 13人に対し、総合診療・地域医療に関する教育指導を行いました。

■ 令和元年度初期臨床研修受け入れ人数

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	研修受け入れ総人数
熊本大学病院	1												1
公立玉名中央病院 / 玉名教育拠点						1	2	3	2	3	1		12

② 専門医研修

熊本大学地域医療支援・総合診療後期研修プログラムの3年目の専攻医1名に対し、教育指導を行いました。熊本大学総合診療専門研修プログラムでは、本年度研修を開始する専攻医はいませんでした。前年度研修を開始した専攻医6名が、県内の公的病院において昨年から引き続き研修を行いました。研修の支援・指導の充実を図るため、テレビ会議システムを活用し、毎月2回、症例検討を遠隔で指導するとともに、専攻医等の研究発表をテレビ会議システムを通じて各病院へ配信しました。また、年4回レジデントデイを開催し、専攻医の研修修了要件であるポートフォリオの作成指導などを行いました。本年度のプログラムへの応募状況は、専攻医が1名採用され、さらに他プログラムから専攻医が1名、熊本大学のプログラムに移籍しました。

➤ 熊本大学地域医療支援・総合診療後期研修プログラム（Ver.2）

当プログラムは、日本プライマリ・ケア連合学会認定の家庭医療後期研修プログラムです。熊本大学医学部附属病院を中心として、熊本県内の様々な医療施設の協力のもと、オール熊本として、総合診療専門医の育成に取り組むプログラムです。研修施設には、大学病院や地域中核病院に加え、小規模病院等も含まれ、県庁所在地である熊本市内のみならず、県内の各二次医療圏に研修施設があります。大学病院は、県内唯一の高度先進医療、特定機能病院ですが、総合診療研修としてはアカデミックなトレーニングが可能です。また各専門診療科では、高度な先進性にも触れながらの研修が可能になっています。地域医療では、政令指定都市でハイボリュームの救急医療を行なう総合病院から、地域中核病院、僻地中核病院～診療所など、バラエティに飛んだ医療施設、地域での研修が、可能になっています。これらの施設がプログラムに参加することにより、異なる特性の施設で地域に根付いた研修を行う事ができ、本人の希望に応じた研修が可能です。

尚、日本専門医機構による新専門医制度への移行に伴い、令和元年度末に廃止される予定です。

➤ 熊本大学総合診療専門研修プログラム

当プログラムは、日本専門医機構認定の総合診療医後期研修プログラムです。熊本大学医学部附属病院を中心として、熊本県内全域に広がる様々な医療施設の協力のもと、オール熊本として、総合診療専門医の育成に取り組むプログラムです。研修施設には、大学病院や地域中核病院に加え、小規模病院等も含まれ、県庁所在地である熊本市内のみならず、県内の各二次医療圏に研修施設があります。

県内全域に広がる多くの施設がプログラムに参加することにより、異なる特性を持つ施設で、その地域に根づいた研修を行うことができ、本人の希望に応じた研修が可能となっています。また、熊本県医師修学資金貸与の熊本大学卒業生（地域枠入学者を含む）や、熊本県出身の自治医科大卒業生に対し、総合診療専門医としてのキャリア形成支援に寄与することも目指しています。

■ 研修プログラム

プログラム期間は原則として3年間で、総合診療専門研修、必修の領域別研修、その他の領域別研修で構成されます。その他の領域別研修は自分のキャリアに合わせて自由に調整可能です。

総合診療研修	総合診療Ⅰ（診療所・中小病院）	6ヶ月以上	合計 18ヶ月以上
	総合診療Ⅱ（病院総合診療部門）	6ヶ月以上	
領域別研修（必修）	内科	12ヶ月以上	
	小児科	3ヶ月以上	
	救急科	3ヶ月以上	
選択科研修	皮膚科、整形外科、精神科、etc…	希望に応じて	

総合診療研修・必修領域研修機関一覧▼

総合診療Ⅰ	阿蘇医療センター	小国公立病院	内科	人吉医療センター	くまもと森都総合病院
	河浦病院	栖本病院		熊本総合病院	天草地域医療センター
	そよう病院	公立多良木病院		熊本赤十字病院	公立玉名中央病院
	新和病院	沢田内科医院	小児科	阿蘇医療センター	天草地域医療センター
	安成医院	御所浦診療所		人吉医療センター	公立玉名中央病院
	椎原診療所	湯島へき地診療所	救急科	熊本大学病院	熊本医療センター
総合診療Ⅱ	熊本大学病院	熊本医療センター		人吉医療センター	公立玉名中央病院
	公立玉名中央病院	天草地域医療センター			
	上天草市立総合病院	水俣市立総合医療センター			
	人吉医療センター				

■ 研修プログラムのスケジュール例

1. 熊本県医師就学資金貸与医師キャリア形成プログラム

① 総合診療コース（例）

卒後（年目）	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
① 勤務先の種別	基幹型臨床研修病院		第1グループ		第2グループ	第2グループ	第2又は第3グループ		後期研修（義務内）	義務年限終了
② 勤務（研修）先医療機関候補	臨床研修 県内の基幹型臨床研修病院		専門研修 ・公立玉名中央病院 ・人吉医療センター ・熊本総合病院 ・天草地域医療センター		・阿蘇医療センター ・小国公立病院 ・そよう病院 ・公立多良木病院 ・上天草総合病院 ・河浦病院 ・新和病院 ・栖本病院	第2グループの医療機関	第2又は第3グループの医療機関		県内の医療機関	
③ 義務償還期間（年）	1	2	3	4	5	6	7	8	9	—

【備考（総合診療）】

○ 第1～3グループ、後期研修（義務内）の順序は入れ替え可能です。

○ 第2、3グループの医療機関での勤務期間においては、専門性の向上などを目的として、週1日、勤務先以外の医療機関で研修を行うことが可能です。

○ 研修先及び勤務先は、県内の各地域における医師不足状況等を踏まえ、県及び地域医療支援機構において調整した後、熊本県地域医療対策協議会で協議、決定します。

2. 本年度研修修了した専攻医の研修実績

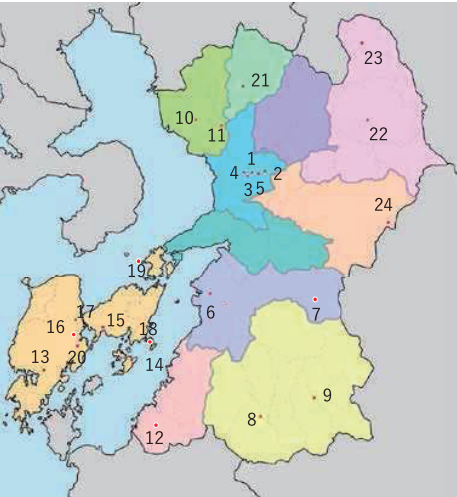
(※ 家庭医療後期研修プログラムVer.2に則ったスケジュール)

総合診療Ⅰ(6ヶ月) 総合診療Ⅱ(6ヶ月) 内科(12ヶ月) 小児科(3ヶ月) 救急科(3ヶ月) 選択科(合計6ヶ月)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	公立玉名中央病院 総合診療Ⅱ (総診Ⅱの研修と並行して週1日の救急研修)											
2年目	公立玉名中央病院 糖代謝内科	公立玉名中央病院 皮膚科	公立玉名中央病院 整形外科	公立玉名中央病院 循環器内科	公立玉名中央病院 小児科			公立玉名中央病院 消化器内科				
3年目	公立小国病院 総合診療Ⅰ											

■ 研修施設一覧 令和元年度

1	くまもと森都総合病院	13	河浦病院
2	熊本赤十字病院	14	御所浦診療所
3	熊本大学医学部附属病院	15	栖本病院
4	熊本医療センター	16	天草地域医療センター
5	沢田内科医院	17	天草中央総合病院
6	熊本総合病院	18	上天草総合病院
7	八代市立椎原診療所	19	湯島へき地診療所
8	人吉医療センター	20	新和病院
9	公立多良木病院	21	山鹿市民医療センター
10	公立玉名中央病院	22	阿蘇医療センター
11	安成医院	23	小国公立病院
12	水俣市立総合医療センター	24	そよう病院



■ 研修医の声

● (専攻医3年目 松田 圭史)

今年度は地域医療・総合診療後期研修の3年目の年になりますが、小国公立病院で研修を行いました。小国公立病院での診療はまさに地域医療であり、人手は不足し、設備も十分とは言えず、大変な面もありますが、あるものを駆使し、様々な職種と連携しながら最良の医療を提供しようとするのはやりがいを感じることもありました。また、これまでは病院での診療がメインでしたが、町全体の医療福祉に関する事業(在宅医療サポートセンター、糖尿病啓発イベント、在宅看取りフォーラム、など)の企画・運営に携わることができたことも大きな経験となりました。来年度には家庭医療専門医を取得する予定ですので、今後は専門医として地域医療に貢献できるよう精進していきたいと思います。

● (専攻医2年目 北村 泰斗)

本年度は、小児科3か月、循環器科3か月、総合内科6か月のメニューでローテート致しました。初期研修医の際にも、小児科・循環器科はローテートしておりますが、その頃は基本的業務の習得に必死で、科ごとの専門的な部分での技術や知識の習得はそれほどであったと思います。専攻医(卒後4年目)であらためてローテートしてみると、少し各科の専門性に目を向ける余裕もでき、自分のめしのたねとして、いろいろのことを吸収できた気が致します。そういう意味で、総合診療医をめざす立場と致しましては、後期研修医として各科を再度ローテートすることに大きな意義を感じます。年々みえる景色も変わってきて、少しずつ俯瞰的にものをみる時間も増えてきた気が致しますが、上級医の先生をみながら自分の医師像を模索し、研修医と接しながら自分の立ち位置を日々確認する毎日です。

● (専攻医2年目 久保崎 順子)

私は、2018年度に熊本大学病院 総合診療専門研修プログラム専攻医となり、プログラムの一環として2018年度は公立玉名中央病院の総合診療科で勤務し、2019年度は他の科での研修を行いました。総合診療科としては、診断が付いた後は各専門科に依頼することも多いため、どういった治療が専門領域でなされているかを知っておくことは、他科とのスムーズな連携をとる上で必要なことだと感じていたため、小児科、内科(循環器、消化器、代謝内科など)、外科(整形外科、皮膚科)と自分が深めたいと思った科を選び、一つの科に出来るだけ長い期間ローテート出来るように予定を組みました。総合診療科での1年を経て改めて他科の診療に携わることは、研修医の時にローテートした時よりも経験や疑問が蓄積していたため、より有意義な勉強期間となりました。とりわけ、外科での研修は印象的でした。というのも、研修医までは内科を志望しており外科は最低限しかローテートせず、特に整形外科や皮膚科の外来、手術は学生以来全く見ていなかったためです。総合診療科に入ると、全ての科に関わりが出来ますが、とくに高齢化のより進んだ地方においては、高齢者の骨折をはじめとした整形外科疾患は絶対に避けて通れないものであるため、より知識を深める必要があると感じていました。今回、整形外科の視点から、診断から手術、術後のリハビリまで全てを見ることができ、治療技術の進歩、手術による回復の素晴らしさを実感するとともに、手術の難しい例や、合併症なども経験し非常に勉強になりました。

これまで2年間、公立玉名中央病院で、総合診療科およびその他の内科、外科の皆様にご多大のお世話になりました。2020年度は日赤病院の総合内科に半年、その後は玉東町の安成医院で研修をさせていただきます。新しい環境に不安と楽しみとが入り混じっていますが、いい意味で心の余裕を失わず、医師として人間として成長していきたいと思います。

（専攻医2年目 空田 健一）

総合診療科の専攻医2年目のプログラムとして、天草地域医療センターに来て住んでみると想像していた以上に働く環境も自然の環境もよいところでした。各先生方より適切なご指導をいただくことができ、不安を感じる場面は少なくなってきました。温泉は玉名のほうがよかったですが、天草の食事と海をととても気に入ったので、今後は天草地域で暮らしていきたいです。今後も皆さまに信頼していただける医師を目指し、しっかりと勉強していきます。

今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

（専攻医2年目 永田 洋介）

今年度は専攻医2年目として、そよう病院総合診療科の研修を行いました。救急外来から慢性疾患の外来管理、訪問診療、時には高次医療機関との連携を取りながら専門性の高い治療を継続したりと幅広い経験をしました。地域で暮らす方々の健康を管理することはまさに総合診療そのもので、患者さんの社会的背景も含めて多面的に考えることの重要性を改めて学びました。昨年に引き続きテレビ会議システムを利用し診療上の疑問点を解決したり、カンファレンスを通じて診療精度を高めたりと、十分なサポートの元仕事に従事することが出来ました。また、研修日を利用し、上部消化管内視鏡、下部消化管内視鏡の手技を身につけ地域医療に従事しながらも高度医療や各科専門医による治療も同時に学ぶことが出来ました。今後も引き続き日々成長出来るように充実した研修を続けたいと思います。

（専攻医2年目 早川 香菜美）

専攻医2年目になり、現在は天草の河浦病院で勤務しています。外来、病棟、訪問診療と多岐にわたり診療に携わらせていただいています。

今特に力を入れていることは、保健・福祉との連携事業です。2019年4月に保健・福祉との連携事業を立ち上げ、運営委員の一人として関わらせていただいています。それぞれの事業所がどのような仕事をしているのか、どんな人たちが働いているのか から始め、互いの得意分野を生かしながら協力して河浦町をより良い町にするための活動を行っています。また、天草市でも多職種共同のボランティア団体を立ち上げ、そちらにも初期メンバーとして関わらせていただいています。どちらの活動もまだ活動を始めたばかりで手探り状態ですが、今後もこれらの事業に携わっていきたいと思っています。

まだまだ未熟であり、他先生方やコメディカルの方、地域住民の方々に支えられながら日々診療を行っています。そんな方々に恩返しができるように自分にできる限りのことをやっていきたいと思っています。

（専攻医2年目 平賀 円）

2019年1月は人吉医療センター、2月以降は公立玉名中央病院でお世話になりました。病院によって特色や地域性は違うのは当然ですが、救急外来にいとそういった違いを肌で感じることができ、玉名の夜間はややコンビニ受診が多い印象でした。初めの7ヶ月間を総合診療科、その後に整形外科、皮膚科、循環器内科と研修させていただきました。玉名には総合診療科を回る研修医が多く、今振り返れば、彼ら彼女らに「教える」ということが今年一番の課題だったかと想います。4月には腰椎穿刺の手技経験が全く足りていないことをO山先生に表情だけでばれてしまい、緊張の中穿刺を行ったことは良い思い出です。そんな玉名中央病院では、後輩に教えられるように自らが勉強する大事さを学びました。

また、定期的に飯塚病院に赴き、Resident As Teachers (RATs) という勉強会に参加させていただいたことも大きな糧となりました。研修医へのフィードバックや効率的なレクチャーなど理論的に教育というものを学ぶ機会になりましたし、専攻医らの意識の高さも感じ取ることができました。

PC学会では「学生の地域臨床実習」をテーマにポスター発表しましたが、RATsも含めて、今後もそのようなテーマを自分なりに勉強していきたいなと想う今日この頃です。

来年度もよろしくお願いいたします。（別件ですが、8月に第一子が誕生したこともここでご報告させていただきます。）

指導医養成

➤ 熊本大学総合診療指導医養成プログラム

■ プログラムの概要

このプログラムは、熊本大学が提供する独自の指導医養成プログラムになります。大学という教育・研究機関が提供するプログラムである特色を活かして、個別のニーズに合わせて総合診療・家庭医療の臨床経験だけでなくアカデミックなキャリアも積むことができることが特徴です。内容は専門医を取得してから最初の専門医更新までの5年間の教育に特化しており、主に卒後5年目から卒後12年目の若手医師を対象にしたプログラムです。更には、医学生から専攻医までの様々な世代への教育の経験ができ、連携機関も県内多数に存在するため、多彩な診療能力をニーズに応じて学ぶことができます。

また、指導医の資格を取得後の様々なキャリアに即し、特にSpecial Interestを深められるように自由選択性の研修を2年ほど取り入れています。Special Interestの領域については、各人の興味のある分野をさらに伸ばせるよう熊本県内の医療機関で研修が開始できるように熊本大学が全面的にバックアップしていきます。

■ プログラムの対象者

1. 専門医機構における総合診療研修の指導医条件に該当する、または平成31年度から該当となる予定の方
2. 卒後5年目～卒後12年目の方

■ 研修期間（5年間）

1. 指導医養成基盤研修（3年ほど）
 - ・総合診療研修施設（病院総合医・家庭医）での指導医研修
 - ・1年程度の大学教員（医員待遇）研修
 2. 自由選択制研修（2年ほど）
 - ・個別のニーズに合わせて選択式の研修
 - ・Special Interest研修
例）各種専門研修、開業・開業準備、留学等
- 各専門研修には、例えば、救急や緩和医療、在宅医療、などを準備しています。

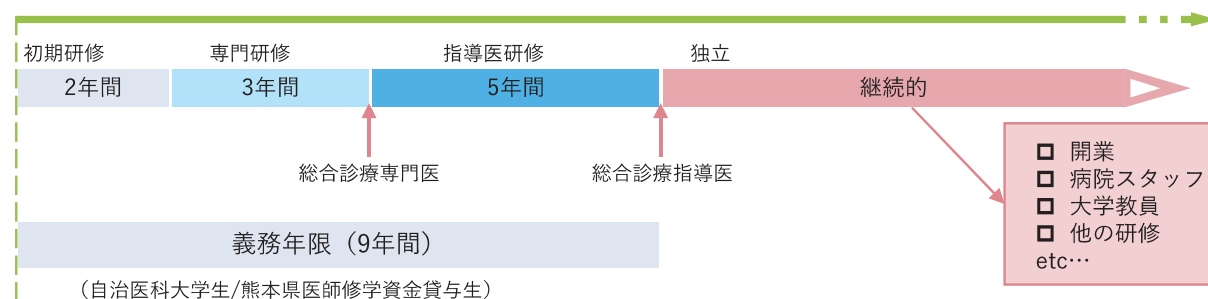
■ 一般目標



■ 研修後のキャリアについて

指導医養成プログラムでは、世界水準の質の高い指導医を1つのゴールとして、総合診療の指導医習得および、家庭医・病院総合医としてのBrushUP, Special Interestの選択（専門医機構の今後の動向に合わせ検討）など、有意義な経験を積んでいただければと思っています。もちろん、指導医になることがゴールではなく、指導医習得後も更なるキャリア形成の機会を提供したくと思っています。具体的には、指導医として地域医療従事、国内外の留学、大学院への進学、大学教員、開業（新規・継承）などがあると考えています。

また、このプログラムは、県の医師就学金貸与制度や自治医大の卒後研修など、9年間の義務年限がある方々にとっても義務の研修を実施しながら、キャリア形成が可能で、義務終了後の次のキャリアにも結びつけることができる研修であるのも特徴です。

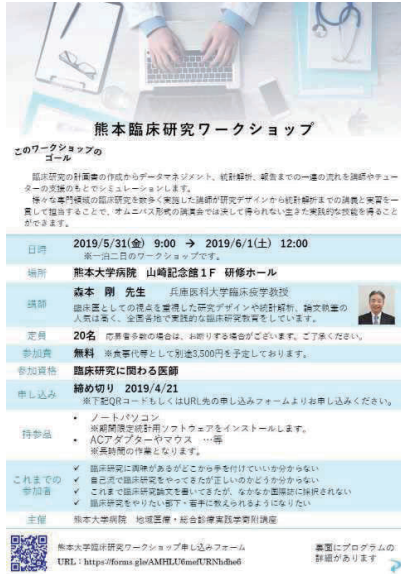


講演会

主催

熊本臨床研究ワークショップ
2019年5月31日金曜～6月1日土曜

兵庫医科大学臨床疫学 教授 森本 剛 先生



プログラムスケジュール				
2019/5/31 (金)				
時間	形式	内容	所要時間	
9:10 - 9:40	—	受付	0:30	
9:40 - 10:00	—	開会式・オリエンテーション	0:20	
10:00 - 10:40	講義Ⅰ	臨床研究デザイン	0:40	
10:40 - 11:50	グループワークⅠ	臨床研究計画 各休憩含む	1:10	
11:50 - 12:10	ハンズオンⅠ	統計解析ソフト導入	0:20	
12:10 - 13:10	—	昼食	1:00	
13:10 - 13:40	講義Ⅱ	統計解析の原則・記述統計	0:30	
13:40 - 14:10	ハンズオンⅡ	記述統計実習	0:30	
14:10 - 14:40	講義Ⅲ	単変量解析の構造	0:30	
14:40 - 15:10	ハンズオンⅢ	単変量解析実習	0:30	
15:10 - 15:30	—	休憩	0:20	
15:30 - 18:30	グループワークⅡ	研究計画書作成	3:00	
18:30 - 20:30	—	懇親会・夕食	2:00	
2019/6/1 (土)				
時間	形式	内容	所要時間	
9:00 - 9:30	講義Ⅳ	統計解析レビュー	0:30	
9:30 - 10:15	グループワークⅢ	データ解析実習・図表作成	0:45	
10:15 - 10:30	—	休憩	0:15	
10:30 - 11:45	発表と討論	研究計画書・報告結果報告会グループ15分発表 各発表についてのディスカッション10分	1:15	
11:45 - 12:00	プレナリー	ラップアップ・開会式・受講証授与	0:15	

地域に埋もれている重要な情報から臨床研究を介してエビデンスを構築することで、地域医療に従事しながらキャリア形成に繋げ、さらには医師就学資金貸与医師や自治医科大卒医師の県内定着を促すため、5月31日（金）～6月1日（土）に17人の参加者を得て、左記のとおり熊本大学病院山崎記念館で熊本臨床研究ワークショップを開催しました。

主催

第16回地域医療・総合診療グランドラウンド

「ニュージーランド臨床留学を通して見たもの～ニュージーランドのGPとの関わり～」
2019年9月12日木曜 18:00～19:00



元オークランドシティ病院
心臓胸部外科 臨床フェロー
月岡 祐介 先生



第16回地域医療・総合診療グランドラウンドのテーマは、「ニュージーランド臨床留学を通して見たもの--ニュージーランドのGPとの関り--」です。
2019年9月12日（木）18時～ 熊本大学病院の山崎記念館にて開催いたしました。

元オークランドシティ病院 心臓胸部外科 臨床フェローの月岡祐介先生に、ニュージーランドでのGP（General Practitioner）の役割や必要性、海外で医師として働くために必要なことなどをご講演いただきました。

また今回は初の試みで、セミナーの様子をTV会議システムを使って、公立玉名中央病院、天草地域医療センター、阿蘇医療センターへ中継いたしました。質疑応答では各施設から質問をいただき、活発な意見交換が行われました。



その他

表彰

松井教授、谷口准教授、高柳助教が、熊本大学医学部医学科における特別臨床実習（クリニカル・クラークシップ）での地域医療の学修促進と学修成果獲得へ多大な貢献をしたということで、令和元年度熊本大学教育活動において学長より表彰されました。

教育拠点

玉名教育拠点

1. 活動概要

玉名教育拠点は2015年4月、公立玉名中央病院に地域医療の支援及び地域医療の実践教育を行うべく開設されました。2名の常駐寄附講座教員でのスタートでしたが、現在、指導医2名、後期研修の専攻医4名に加え、さらに地域医療・総合診療実践学寄附講座から人的サポートもあり、病院の診療支援および実践的な教育の提供という目標が実現されつつあります。

2019年初期臨床研修プログラム研修医（基幹型1年次：3名、2年次：3名、協力型は合計8名のは特別臨床実習（クリニカル・クラークシップ）の「総合診療科」の受け入れを行なっております。地域医療・総合診療実践学寄附講座スタッフは、医学生、初期研修医、専攻医とともに総合診療科として救急外来、一般外来、入院、在宅医療にとり組み、地域の医療を支援しつつ、実践的な教育を行なっています。

今後、地域医療に貢献するため、地域での総合診療科の認知度、研修の場としての教育拠点の認知度をさらに上げ、地域での卒前、卒後の医学教育を継続し、充実させていかなばならないと考えています。

右の活動実績のごとく、院内外のレクチャー、カンファレンスも整備が進んでおり、玉名ならではの「学ぶ機会」、特に地域医療職の皆さんに限らず、地域住民の皆様との交流を通じた研修の機会もさらに増えています。より充実した教育環境づくりを進めて行きたいと思います。

初期研修・専攻医の活動は医療のネットワークと地域住民のネットワークをつなぐ役割を果たしつつあり、今後、地域づくり、地域医療研修に新しい方策をもたらすことが期待されます。



玉名救急医療研究会

2. 年間活動実績

月	日	行事
4	1	オリエンテーション
	13	レジデントデイ
5	17-18	JPCA学会 参加
	24	有明緩和ネットワーク研究会
6	14	玉名在宅ネットワーク会議
7	1	玉名救急医療研究会
8	7	有明緩和ネットワーク研究会
	9	講演会「心不全緩和のエッセンス」
	16	講演会「お・と・なの臨床倫理」
	19	有明感染症移送訓練
21-22		有明消防 救急趣味レーション研修
	27	公立玉名中央病院 CPC
9	6	玉名塾 Dr. Ramar 「Sepsis～ Management Update 2019」
	28	有明地区研修医合同カンファレンス
10	7	玉名救急医療研究会
	13	E-レジナビ 参加
11	15	有明緩和ネットワーク研究会
1	6	玉名救急医療研究会
	31	これからの玉名の地域医療を考える会
2	23	横島町いちごマラソン救護
	23-28	基幹型研修医 タイ 研修(中止)
3	15	玉名薬剤師会 市民公開講座 参加
	19	初期臨床研修 修了式



これからの玉名地域医療をみんなで考える会

3.活動報告

1 教育活動

◆ 特別臨床実習

熊本大学医学部の1ターム3週間の特別臨床実習（総合診療科 クリニカル・クラークシップ）を玉名教育拠点で受け入れています。

本年度も各学生に入院患者の担当を割り当て、それぞれが日常診療業務に医療スタッフの一員として診療に参加し、診療の中から自らのクリニカルクエストを見出し、これに基づいた論文検索から担当患者への適応までを期間内で実践することとしています。

第3週に学習成果の発表を抄読会形式で実施し、評価の場としました。その結果、3週間を通して患者の診療を経験すると同時に、論文検索を通して疾患についての学習を深めることができ、充実した実習であったとの学生からの評価を得ることができました。

この学習手法を実行する為には、指導医、専攻医、研修医、医学生「屋根瓦式」の指導・教育体制が不可欠です。来る2020年度も、更に多くの医学生の参加するよう地域での医学教育の質の向上に努めたいと思います。



朝回診風景～屋根瓦式指導体制



リエゾンカンファレンス

玉名教育拠点における週間スケジュール

1-2週					
	月	火	水	木	金
7:30			プライマリ ケアレク チャー		
8:00	救急合同 カンファ	モーニング レクチャー		プレゼン 研修	
8:30	医局ミーティング/総合診療科入院患者様回診				
9:00	外来研修	外来研修 or 訪問看護	外来研修	外来研修 or 訪問看護	外来研修
13:30	外来レ ビュー	外来レ ビュー	訪問診療 (安成) or 緩和ケア回 診(不定期)	外来レ ビュー/各種 講義	外来レ ビュー
15:00	病棟研修	リエゾンカ ンファ	緩和ケア回 診(不定期) or 病棟研修	病棟研修	病棟研修
16:30	新患カン ファレンス	病棟研修	病棟研修		皮膚科合同 カンファ
17:00	振り返り				週間振り返り
17:30	自己研修				

3週					
	月	火	水	木	金
7:30			プライマリ ケアレク チャー		
8:00	救急合同 カンファ	モーニング レクチャー		プレゼン 研修	
8:30	医局ミーティング/総合診療科入院患者様回診				
9:00	外来研修	外来研修 or 訪問看護	外来研修	外来研修 or 訪問看護	外来研修
13:30	外来レ ビュー	外来レ ビュー	訪問診療 (安成) or 緩和ケア回 診(不定期)	外来レ ビュー/各種 講義	外来レ ビュー
15:00	病棟研修	リエゾンカ ンファ	緩和ケア回 診(不定期) or 病棟研修	病棟研修	病棟研修
16:30	新患カン ファレンス	病棟研修	病棟研修	TMEC	皮膚科合同 カンファ
17:00	振り返り				週間振り返り
17:30	自己研修				

プライマリケアレクチャー	熊本県地域医療支援機構で受講可能なオンラインレクチャー
モーニングレクチャー	臨床のみならず、地域医療に関するレクチャー
リエゾンカンファ	総合診療科入院患者の退院に向けての目標設定、臨終調整を多職種で検討するカンファレンス
TMEC	クリニカルクラークシップ医学生による担当症例についての発表会



TMEC

◆ 初期臨床研修（総合診療科研修）

2019年4月時点で、公立玉名中央病院は、基幹型研修プログラムに3名の研修医がマッチし、基幹型2年次3名と熊本大学病院のプログラムの協力医療施設として6名、国立熊本医療センタープライマリケアコースの協力型として2名、計14名の初期臨床研修医(研修医)を受け入れてまい。玉名教育拠点は、総合診療科研修および地域医療研修を担当し、指導を行いました。

まず総合診療科研修で研修医は、外来・入院・訪問診療を研修し、自らが診療の始めから終わりまでを一貫して実践し、研修医中心の参加型研修を実践しました。研修医は患者を「主治医」として担当し、指導医との連携の中で中心的な役割を担います。この事で、研修医からは「自分の患者」という意識が芽生え、責任感と医師になったことの実感が得られたとの評価を得ています。

課題としては、初期臨床研修医の期間は、月ごとの成長が著しく、研修時期に応じて研修医の臨床能力に大きな差が生じ、担当患者数のみならず、患者の重症度や疾患の種類で、研修負担の調整が困難であること、指導医師の業務の負担が大きくなってしまっていることが挙げられます。



午後回診風景
医学生、初期研修医、専攻医
総合診療スタッフ



新患カンファレンス



朝の研修医プレゼン研修

◆ 総合診療専門医（専攻医）研修

玉名教育拠点および公立玉名中央病院では熊本大学病院 総合診療専門医研修プログラムの「総合診療Ⅱ」、「内科研修」、「小児科研修」および「救急研修」を実施しており、2019年度は3名の2年次の専攻医が研修しました。彼らは自らの診療研修にとどまらず、初期研修医、医学生の教育の一端を担っています。この為、病院機能もかなりの部分で専攻医に依存する部分も多くなっており、専攻医の負担を軽減するシステムの構築と総合診療専門医研修プログラムへのリクルートは重要になっています

◆ 講演会・レクチャー

玉名拠点では様々な職種が参加するバリエーティー富む勉強の機会が設けられています。



心不全緩和のエッセンス



玉名塾：Dr.Ramar レクチャー



お・と・な の臨床倫理

◆ モーニングレクチャー

日程	担当：講義内容	日程	担当：講義内容
4月2日	総合診療科：円滑なコミュニケーション	9月12日	腎臓内科：腎不全、急性腎障害
4月9日	総合診療科：コンビニ受診	9月17日	摂食嚥下障害認定看護師：摂食嚥下障害看護
4月16日	安成医院：在宅医療	9月19日	腎臓内科：輸液について
4月23日	安成医院：キク、コミュニケーション	9月24日	麻酔科：麻酔が原因の心停止
4月30日	診療情報管理室：診療記録	10月8日	皮膚科：火傷
5月7日	感染管理認定看護師：感染管理	10月15日	皮膚科：中毒疹
5月14日	診療情報管理室：DPC	10月29日	泌尿器科：導尿・尿道カテーテルの手技
5月21日	救急看護認定看護師：当院の救急医療	11月5日	泌尿器科：救急外来で泌尿器科疾患らしき人が来たら…
5月28日	医療安全室：医療安全管理	11月13日	消化器内科：H. pylori除菌治療
6月4日	MSW：医療費について	11月20日	消化器内科：急性胆管炎・急性胆嚢炎
6月11日	MSW：地域の連携先	11月26日	小児科：小児救急・CPAへの対応
6月18日	理学療法：リハビリテーションと理学療法	12月3日	小児科：熱性痙攣の対応
6月25日	理学療法：言語聴覚士の仕事	12月10日	整形外科：骨折一般
7月2日	呼吸器内科：肺がんの疫学	12月17日	整形外科：ギブスの巻き方
7月9日	呼吸器内科：人工呼吸の目標	12月24日	病理診断科：胃印環細胞様変化 1
7月16日	糖尿内分泌科：生活習慣病の治療	1月7日	病理診断科：胃印環細胞様変化 2
7月23日	糖尿内分泌科：ICUにおける血糖管理、内分泌疾患のエマージェンシー	1月14日	血液内科：貧血と血小板減少
7月30日	糖尿病認定看護師：糖尿病看護について	1月26日	放射線科：急性腹症の画像
8月6日	循環器内科：AMI治療、心電図 1	2月4日	放射線科：胸部単純写真の読影
8月13日	循環器内科：AMI治療、心電図2	2月18日	緩和ケア認定看護師：緩和ケア看護の現状
8月21日	健診センター：健診センターの紹介	2月25日	がん化学療法看護認定看護師：がん化学療法看護の現状
8月27日	健診センター：行動変容を目指した保健指導	3月3日	薬剤部：薬剤部の業務紹介
9月4日	外科：胸部外傷	3月10日	薬剤部：薬剤師と医師との協働・連携
9月5日	腎臓内科：血液ガス・電解質異常	3月17日	認知症看護認定看護師：認知症看護の現状
9月11日	外科：腹部外傷		

モーニングレクチャーとは…

＊各診療科、部署のエキスパートから実践に即した知識や技術を学ぶ場です。

＊指導は医師に限らず、様々な職種のスタッフに協力していただき、幅広いテーマの研修が可能となっています。



Ⅱ 診療

公立玉名中央病院にて、総合診療科での外来および病棟診療を行なってます。また、同院の他診療科からの相談や救急診療にも携わりました。

総合診療科での診療に当たり、玉名教育拠点に常駐する教員2名、スタッフ医師（家庭医療専門医）の他、研修医、地域医療・総合診療実践学寄附講座の教員も外来診療、救急医療に携わりました。

公立玉名中央病院 総合診療科

月	火	水	木	金
中村	武末	武末	松井	中村
小山	小山	中村	(小山)	小山
	田宮	田宮	田宮	

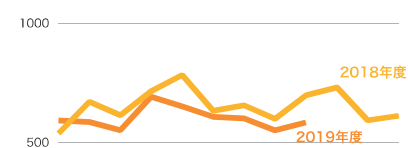
Ⅲ 年間診療報告

玉名教育拠点開設から5年目となりますが、医学生、初期研修医、専攻医および地域医療・総合診療実践学寄附講座スタッフがチームを形成し、総合診療科外来として外来診療および他診療科からのコンサルト対応を行うとともに、2017年度から水曜日を除き、連日、日勤帯の救急外来も担っています。

今年度は総合診療科の専攻医が減少したため、診療の中心は新たに加わった2名の家庭医療専門医のスタッフとなっています。彼らへの負担は極めて大きいものとなっておりますが、彼らの活躍により下の図が示すごとく、総合診療科への受診総数、初診者数および入院担当患者数は気候や感染症の流行による増減は見られるものの、今年度も同様のレベルを維持できています。何より彼らの真摯な態度は周辺地域への総合診療科の存在を印象付けるとともに、当院に実習や研修に訪れた学生、研修医及び専攻医の身近なロールモデルとなっています。

救急診療においては2017年より中心を担うようになった救急外来での受け入れ救急車台数は増加し、特筆すべきは不応需率が明らかに低下していることです。救急の現場で「断らない医療」が実践されつつあります。救急医療の充実には地域に信頼される医療機関になるためには必須です。総合診療科が公立玉名中央病院の救急体制を支えるのは最終ゴールではなく、今後、病院をあげての救急体制構築が目指すべきものだと考えます。

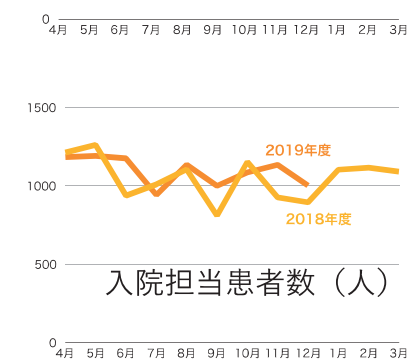
このように玉名中央病院での診療において総合診療科の役割は拡大しています。



外来受診総数（人）



初診者数（人）



入院担当患者数（人）



天草教育拠点

1. 活動概要

天草教育拠点は、多くの方々のご尽力により、熊本大学病院地域医療・総合診療実践学寄附講座の2番目の学外教育拠点として、玉名教育拠点に引き続き2019年4月に設置されました。2019年度は2名の常駐寄附講座教員と後期研修の専攻医1名でスタートしています。

設置の目標としては、①総合診療科としての天草地域の特性を踏まえた形での医療貢献②地域医療を含めた卒前卒後教育の充実、です。

医療貢献という点では、天草地域医療センター総合診療科として、おもに2次医療機関としての病院総合医の役割を担っています。天草地域の小病院、クリニックなどから紹介していただき、主に紹介外来としての一般外来を毎日行っています。また、入院診療、救急外来、少数ですが在宅医療も行っています。

教育に関しては、2019年度はクリニカルクラークシップの受け入れや初期研修医の受け入れがシステム上でできておらず、質、量ともにまだまだの部分があります。地域医療実習の学生の一部、早期臨床体験実習の学生には、実臨床での実践的な教育、地域の特性を理解しつつ目の前の医療に落とし込む地域医療の教育などを、行ってきました。

今後、天草地域医療センター総合診療科に対して、特に地域医療機関や院内から求められることは、主に病院総合医としての役割だと思っています。今後も地域医療機関や院内のニーズに応えつつ、しかしそれだけではなく、もっと広い地域のニーズを抽出しながら、天草地域の医療、教育の発展のため、ただの病院総合医にとどまらない貢献を、組織としてひとつひとつ実践していきたいと考えています。



2. 年間活動実績

- ・ 毎週木曜午後 院内ポートフォリオ勉強会
- ・ 毎月2回 合同WEBカンファレンス
- ・ 8月22日 院内学会 発表
- ・ 12月14日 院内学会 発表

3. 活動報告

教育活動

◆ 特別臨床実習

熊本大学医学部では、1ターム3週間の特別臨床実習（クリニカルクラークシップ）を実施しており、地域医療実習として天草地域医療センターに1ターム1～2名の5年生が実習に来ています。このうち、実習中は1週間毎に各科を選択できるため、総合診療科を選択した学生を担当いたしました。多くは1週間の選択のみでしたが、1名は3週間すべて総合診療科を選択した学生がいました。

内容としては、入院患者の担当を割り当て、指導医と直接相談しながら医療チームの一員として積極的な診療参加を促しました。また、毎朝のカンファレンスでプレゼンテーションを行いました。特に3週間の期間があった学生は、入院から退院までの流れ、退院後の生活についての配慮すべきことなどまで、一連の流れを学ぶことができたと考えます。また、外来、救急では、初診患者の病歴や身体所見などから検査計画や診断、治療につなげるトレーニングを担当医とともに行いました。さらに、天草の地域性も考慮し、通院にかかる時間や交通機関などの影響、普段の生活の状況把握、保健福祉なども含めた地域リソースの把握の重要性など、総合診療学的な内容も症例から直接的に学ぶ機会を設けました。

今後は、より多くの学生が総合診療科での実習（総合診療分野でも、地域医療分野でも）ができるよう、大学での体制を作っていくていただけることを大いに期待しています。



◆ 早期臨床体験実習

熊本大学医学部では、早期臨床体験実習として今年から、3年生に1週間の日程で各病院での実習が行われました。天草地域医療センターにも3名の学生が実習に来ましたが、熊本大学からの移動時間の問題もあり、天草地域医療センターでの実際の実習期間は3日半でした。すべて総合診療科で担当しました。内容としては、認知症患者との雑談、外来患者へのインタビュー、リハビリテーションの参加、訪問看護の参加などを行いました。天草地域をベースに、地域の特徴を理解、把握したうえで診療を行うことの重要性を認識してもらえたと思います。

◆ 初期臨床研修医

天草地域医療センターの初期臨床研修医は、今年度は1月までの時点で総合診療科の選択がなく、直接的な指導はほぼ行えておりません。今後は、初期研修医自身が総合診療科ローテートを選択できるような体制、充実した教育を行える環境を作っていくことが課題です。

地域医療研修として、1か月のみ他院から初期研修医が研修を行いました。指導医と連携しながら入院患者を担当し、医療チームの一員として積極的に診療に参加しました。また、地域志向、患者中心の医療、家族志向などの総合診療学的な内容も症例をもとに学びました。

今後は、より多くの初期研修医が総合診療科をローテートできる体制を作っていただけることを大いに期待しています。

◆ 総合診療後期研修医

総合診療研修プログラムのうち「総合診療Ⅱ」を担当しています。専攻医1名が在籍しています。本人のニーズ、診療能力に合わせた診療内容を指導医が調整しながら行っています。他科と協力しながら、呼吸器内科研修、超音波研修、上部消化管内視鏡研修なども取り入れています。また、週に1回、河浦病院からもう1名、専攻医が研修にきています。その日にあわせて、ポートフォリオ勉強会を毎週行っています。しかし、指導医の外来担当日も重なっていることもあり、診療優先で勉強会を行えない日もありました。

今後も、玉名、大学とも連携しつつ、熊本全体で専攻医の充実した指導を行える体制を作っていきたいと考えています。

II 診療

天草地域医療センター 総合診療科

	月	火	水	木	金
高杉	外来	救急	外来	救急	外来
鶴田	救急	外来	救急	外来	

III 年間診療報告

今年度から天草教育拠点の開設、天草地域医療センター総合診療科が常勤になり、平日は毎日外来を行っています。地域の先生方からは、「何科に紹介すればいいか悩む症例を紹介しやすくなった。」「原因のわからない症状でも相談できて助かる。」等のありがたい評価もいただいています。当院の総合診療科は、二次病院における病院総合医の役割として、

- ・医師会の先生方と密な連携をとり、天草の地域医療へ貢献をする事
- ・院内で専門医の負担軽減を目指しつつ院内連携を強化する事

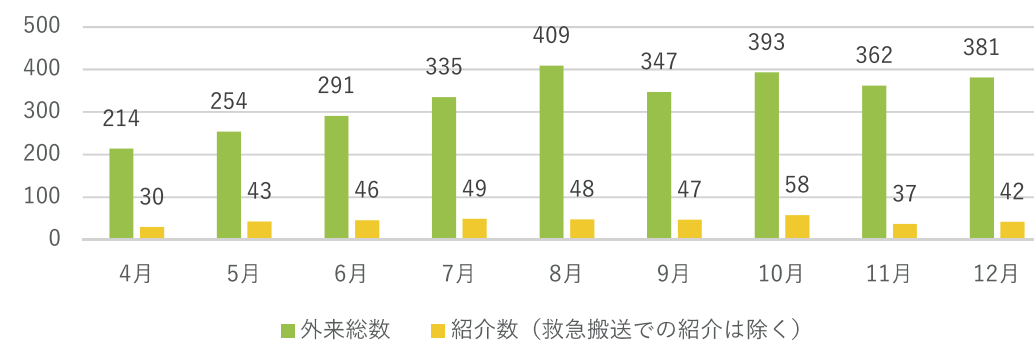
が重要な役割だと考えています。

外来・入院で診る疾患としても多分野に及び、悪性疾患（悪性リンパ腫、白血病、胃癌、大腸癌、肝細

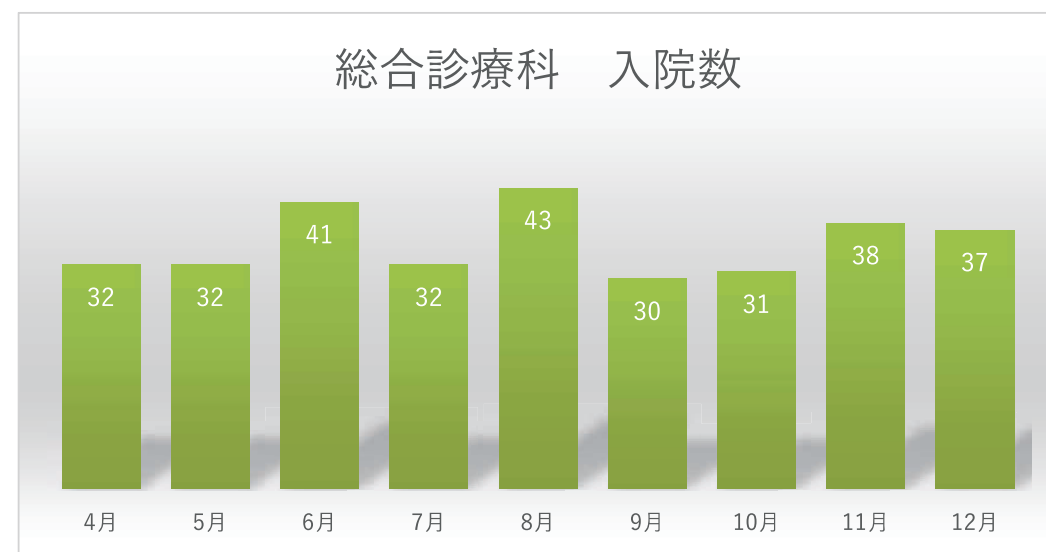
胞癌、管内胆管癌、尿管癌、肺癌反回神経麻痺など、各種疾患の診断や各科への紹介、末期患者の緩和治療など）、感染症（EBV伝染性単核球症、百日咳、マイコプラズマ、カポジ水痘様発疹症、深在性真菌症、日本紅斑熱、椎体炎、腸腰筋膿瘍、感染性心内膜炎など）、膠原病関連（関節リウマチ、シェーグレン症候群、ベーチェット病、リウマチ性多発筋痛症、巨細胞性動脈炎、ANCA関連血管炎など）、運動器疾患（圧迫骨折、各種骨折や外傷、解離性運動麻痺など神経障害など）、ほかにも悪性貧血、ネフローゼ症候群、気胸、乳糖不耐症、めまい症、認知症、アナフィラキシーなどがあります。それぞれ、外来や入院で診断をつけて適切な科に紹介したり、当院で入院治療や外来フォローアップを行ったりしています。

また、現在当科が行っている取り組みの一つとして、ST、管理栄養士と連携し、摂食嚥下チームの充実化を行っています。昨年度までは行われていなかった嚥下内視鏡検査、嚥下造影検査での嚥下評価を行い、患者様にあった摂食嚥下のリハビリテーション計画、食支援を実践出来るように取り組んでいます。

外来患者数（救急搬送は除く）



総合診療科 入院数



5 熊本県医師修学資金貸与制度

1. 地域医療ゼミ

① 概要

地域枠学生等（熊本県医師修学資金貸与学生）に対し、地域医療に関する様々なテーマで毎月1回ゼミを開催しました。

熊本県知医師修学資金貸与学生は43人おり、各学年の人数は右の表のとおりです。昨年度から開始した「インタレストグループ」を今年度も継続し、「臨床推論」「シネメデュケーション」「キャリアと制度」のテーマを設定し、学生個人が興味のあるテーマを選び、事前に取り組む内容を決めて地域医療ゼミの当日にプレゼンするという形式でゼミを開催しました。

1年生	5人
2年生	7人
3年生	6人
4年生	11人
5年生	6人
6年生	9人

② 活動報告

0 2019年3月22日、前年度最後の地域医療ゼミが行われました。

地域医療ゼミの先輩でもあります、熊本大学病院 山村 理仁先生、公立玉名中央病院 平賀 円先生、熊本再春荘病院 堀 愛莉花先生を講師に迎え、今現在の勤務についてご講演いただきました。

その後、次年度のゼミ代表のあいさつがあり、レクリエーション、翌年度のゼミ活動グループ分けの話し合いへと進み、翌年度のゼミが楽しみとなるような地域医療ゼミとなりました。



1

2019年4月18日、本年度最初の地域医療ゼミが開催されました。谷口先生から地域医療ゼミの説明や、新入生の自己紹介、年間スケジュールの確認などをしたのち、懇親会を行いました。



2

2019年5月14日、本年度2回目の地域医療ゼミは、2019年度キャリア支援セミナー「アンガーマネジメント応用編」への参加として行われました。（セミナーについてはP.22をご参照ください。）

3

2019年6月20日、本年度3回目の地域医療ゼミが行われました。「キャリアと制度」をテーマに行いました。医師就学資金貸与に対する不安や疑問を洗い出すことができました。



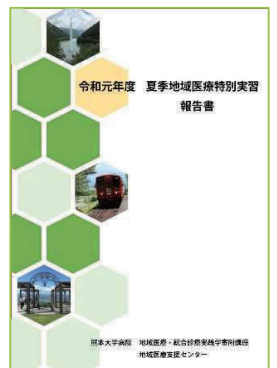
4

2019年7月18日、本年度4回目の地域医療ゼミが行われました。翌月行われる夏季地域医療実習について、事務からは日程の説明を、佐土原先生からは実習の事前課題についての説明を、また、5年生からは各グループ代表から、実習の事前学習についてのスライドを用いての説明がありました。



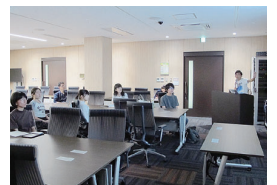
5

2019年8月16日から17日にかけて、上球磨地域医で令和元年度夏季地域医療実習が行われました。詳しくはP.51をご覧ください。（さらに詳細な内容は、別冊の『令和元年度夏季地域医療特別実習活動報告書』をご覧ください。）



6

2019年9月19日、本年度5回目の地域医療ゼミは、インタレストグループによる「シネメデュケーション」です。映画「レナードの朝」を鑑賞し、登場人物の心情を皆で話し合いを行いました。



7

2019年10月17日、本年度6回目の地域医療ゼミが開催されました。
今回のインタレストグループのテーマは「臨床推論」です。臨床推論のやり方をレクチャーし、実際に症例をもとに臨床推論を行いました。



8

2019年10月26日に熊本テルサにて、第24回熊本県国保地域医療学会が開催され、3年生 渡邊 光紗さんが「熊本大学医学部地域医療地域枠夏季地域医療特別実習」と題し発表を行いました。2年生 坂本 萌さん、富士登 璃子さん、中村 水紀さんが参加されました。



9

2019年10月17日、本年度7回目の地域医療ゼミは、医学生・研修医をサポートするための会によるセミナー「やりたいことをあきらめない！Dr.Yukaのフィジカルアセスメントレッスン」への参加として行われました。（セミナーについてはP.22をご参照ください。）

10

2019年12月19日、本年度8回目の地域医療ゼミが開催されました。
今回のインタレストグループのテーマは「臨床推論」です。今回は「診断エラー」について、低学年に向けて丁寧に推論の手ほどきを学びました。



11

2020年1月16日、本年度9回目の地域医療ゼミは、インタレストグループによる「シネマデューケーション」を行いました。「シッコ」を鑑賞し、各国の医療費制度のについて考える機会となりました。



12

2019年2月20日、本年度10回目の地域医療ゼミが開催されました。
今回のテーマは「キャリアと制度」です。医師修学資金貸与制度について熊本県庁医療政策課の方にご説明していただき、自身のキャリアを考える良い機会となりました。



2. 令和元年度夏季地域医療特別実習

I 概要

例年、夏季地域医療特別実習は、熊本県修学資金貸与学生や自治医科大学大学生を対象に2泊3日で、熊本市外の病院や診療所などの医療機関で見学型実習を行っていました。平成24年度には、当講座の前身である地域医療システム学寄附講座が企画し、球磨地域全体をエリアに、今回の対象4町村と公立多良木病院含めて開催されております。近年の医学部カリキュラムの改変で、学外医療機関で実習の機会が増えてはきていますが、地域医療の視点から、医療保健分野のみならず、多方面から広く地域を俯瞰して見る視点を養う機会は少ないのが現状です。将来、熊本県内各地域で医療に従事することが定まっている学生にとって、「地域を知る」ことで、将来の自身の医療者像を考え、



地域での医療に主体的に関わる動機付けにつながることを期待されます。
平成28年度の夏季地域医療特別実習より、「地域を知る」という視点を置き、医療施設の訪問だけでなく、フィールドワークとして、地域の産業、観光資源、生活の場などを、見て・聞いて・感じることができるような構成を踏襲しております。

夏季地域医療特別実習前に事前課題を提示し、地域医療ゼミや自己学習を通じて、あらかじめ地域をリサーチ、課題を抽出、地域診断の視点をもって、フィールドワークで各施設や現場を訪問、意見交換をして、最後にまとめたものを発表、共有してもらうという構成をとっております。

今回は、台風10号の接近により、日程を1泊2日に短縮し、あさぎり町、多良木町、湯前町、水上村の4町村で、6グループに分かれて実習を行いました。

◆ 実習参加者

■ 熊本県医師修学資金貸与制度利用者 熊本大学	16名
■ 自治医科大学医学部医学科 熊本県出身者	10名

II 実習の目標と狙い

◆ 実習の目標

【一般目標】

- ① 地域を知り、地域との関係性を構築する
- ② 将来、地域に求められる医師となる

【行動目標】

- ① 地域住民と交流する
- ② 地域の現状を様々な視点から知る
- ③ 地域の課題の解決・改善策について発表する
学生間で交流を深める
- ④ 地域で求められる医師像について考察する

◆ 実習の狙い

【「地域を知る」実習を通して】

- ✓ 医療関係者として地域から自分たちが期待されていることを自覚する
- ✓ 医療・福祉・行政サービスの提供／利用のされかたの実際をみる
- ✓ コミュニティの中で、それらのサービスを提供する側の視点と生活者としての利用する側の視点の違いを知る
- ✓ 地域によって異なる健康課題があることを分析することにより、将来、医療者としてどのような地域でも求められる健康課題に携わるための示唆を得る
- ✓ 地域特性や課題に応じた地域包括ケア、自助、互助、共助の現場を体験する
- ✓ 他職種の役割や機能と連携、協働のなされ方を知る
- ✓ 参加者間、グループメンバー間のグループダイナミクス、リーダーシップ、マネジメントを体験する

2日間の日程

8/16(金)	
A M	■ 集合 ■ 移動 ■ 事前学習のまとめ
P M	■ フィールドワーク ■ グループワーク ■ 交流会
8/17(土)	
A M	■ 発表 ■ 講話 ■ 移動（くま川鉄道）
P M	■ 移動 ■ 解散

フィールドワーク

フィールドワーク 1班

槻木診療所
多良木町保健センター

フィールドワーク 2班

多良木町立多良木学園
多良木町通所介護事業所

公立多良木病院 在宅医療センター

フィールドワーク 3班

そのだ医院
特別養護老人施設 福寿荘
湯前町保健センター
ゆのまえ温泉 湯楽里

フィールドワーク 4班

社会福祉法人 御薬園
特別養護老人ホーム桜の里
居宅介護支援事業所桜の里
グループホーム桜の里
地域密着型特別養護老人ホーム桜なみき

古城クリニック

水上村社会福祉協議会

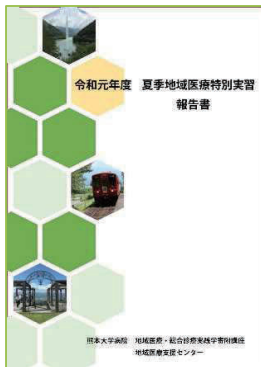
フィールドワーク 5班

松の泉酒造
尾鷹林業
ふれあい福祉センター
岩井クリニック

フィールドワーク 6班

松の泉酒造
尾鷹林業
医療法人誠心会東病院
特定施設入居者生活介護そらまめ
特別養護老人ホームりゅうきんか

詳細は
平成30年度
夏季実習報告書
をご覧ください。



3. 令和元年度卒業生

✳ 奥田 綾乃 ✳ 松原 大勇 ✳ 原井 亮太
✳ 川中 みなみ ✳ 内藤 貴一 ✳ 諸岡 慎士
✳ 松下 祥大 ✳ 中嶋 誠也 ✳ 吉田 龍也

■ 奥田 綾乃

入学当時、大学生生活6年間は長いだろうなと思っていましたが、あっという間に卒業が迫ってきました。振り返ると、遊びに勉強に部活に没頭していた私にとっては、地域ゼミや夏季実習の活動のお陰で、医学生としてより充実した大学生活を送ることができました。

この6年間、地域医療について多くのことを学ばせていただきましたが、中でも最も印象に残っているのが夏季実習です。フィールドワークや意見交換会などを通して地域医療の現状を知るだけでなく、熊本地震や水俣病といった、熊本で医療に携わる上では知っておくべき出来事も、実際にその地域に足を運ぶことで深く学習することができ、たくさんの貴重な経験をさせていただきました。また、診察や診療はもちろん、病気の予防や健康増進、さらには患者個人・家族背景まで考えることで、地域住民の身体的・精神的健康に責任をもって支えていけるような医師が必要とされていること、そのために特に重要なのは、患者さんや家族はもちろん、周囲の医療従事者と良好な関係を築くことだという、最も基本的で最も大切なチーム医療についても学ぶことができました。

低学年の頃は、受け身の姿勢で参加していたゼミや実習も、学年があがるにつれて、より多角的な視点で地域医療とは何かを自ら考えることができるようになったと思っています。特に最後の夏季実習では初めて最上級生として学年やグループリーダーを任せられ、今までの実習とは置かれた立場の違う、緊張感のある、実りの多い3日間でした。同時に、今まで当たり前のように参加してきたこの実習が、本当にたくさんの方々支えがあって成り立つものであるのかを改めて実感しました。また、運営に関しても、入学した頃から一緒に活動してきた同級生の存在はやはり大変心強いものでした。

国家試験に無事に合格できれば、4月からは、初期研修医として熊本の医療に少しでも貢献できるように精進してまいります。忙しい毎日でも感謝の気持ちを忘れず、地域住民の方にとっての「理想の医師像」に少しでも近づきたいと思っています。

最後になりましたが、地域医療・総合診療実践学寄付講座の先生方、スタッフの皆様をはじめ、実習や進路等でお世話になりました多くの方々に心より感謝申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

■ 川中 みなみ

地域医療ゼミに所属してからの6年間で振り返ると、とても充実し、学びの多い6年間でした。入学したての1年生の頃は、医学の知識もほとんどなく、何事も上級生の先輩方、先生方に教えていただきながら、夏の地域医療合宿を楽しみにゼミに参加しているような部分があったな、と個人的に思います。月に一度行われる地域医療ゼミは、私たちにも参加しやすいようにしてくださっていて、低学年にも楽しいゼミでしたが、自分に「地域医療」というものに漠然としたイメージしかなく、自分自身が働く景色も具体的に想像できていなかったように思います。

学年が上がるにつれ、ゼミを通してグループをまとめたり、低学年の後輩に考えてもらったりする機会が多くなりました。大学生活の中で自分がそういった立場になることが少ないので、とても良い経験ができたと思います。地域医療の学会の見学にも連れて行っていただく機会があり、他の学校の同年代のほぼ同じ立場の学生がどのような活動を行っていて、どのような姿勢で地域と関わっているのかを知り、とても刺激を受けました。ゼミや地域実習を重ねると少しずつ地域医療に対する自分の考えも持てるようになってきて、同時に地域に住む方々や、地域で医療に携わる方々の想いも感じ取れるようになってきました。地域医療への関わり方も、ひとつではないと分かり、実際に自分の将来像に当てはめて考えることが多くなりました。

地域医療に関わるきっかけになるなら、初め漠然としていてもいいのかもしれないと振り返りをしながら感じたので、もっと多くの人がゼミに参加してくれるといいなと思います。また、私たちの実習や今後の医療体制を考えて下さっている方が、大学だけでなく他の病院や県行政のほうにもいらっしゃり、それはとてもありがたいことで、していただいたことを今後に活かしていかなければ、と思います。これから研修医となり、その後どここの科を選択するかはわかりませんが、6年間通して「地域医療」について考えてきたことを、何かの形で熊本の医療の貢献につなげたいと思います。

■ 松下 祥大

自身の大学生生活を振り返ってみると、地域医療実習やゼミの存在というのがとても大きなものであったと感じています。卒業というせっかく機会に少しだけ思い起こさせていたきたいと思います。

一年生の夏季実習というのは本当に大きな体験でした。多くの先輩方と一緒に名も知らぬ自治医科大学の皆様と一緒に宿泊での実習。ただただ緊張の中に始まったことを覚えています。しかしながら、フィールドワークの中で出会った地域の方々の交流の中で自然と打ち解けていきました。また、この実習の中で触れてきた多くの思いというものが、私自身の医師像というものに多大な影響を与えました。その思いとともに日々の学習というものを進めてきたように感じています。

それから毎年の夏季実習に参加するたび、その医師像というものはより具体性を帯びてきました。大学での臨床実習が始まると今度は大学での医師の在り方というものに多く触れ、その差異により、「地域での医師」というものがより明確化してきたように感じます。

やはり私は地域医療というものがすきなではないか。そう思ったのもこの頃だったと覚えています。それは生まれた場によるところも大きいとは思いますが、これまでの実習やゼミでの学習というものが影響したのでしょう。

昨今の地域の医師不足は解決すべき大きな問題です。一つの解決の糸口として、今まで体験してきたような小さな交流というものがあるのではないのでしょうか。そのような貴重な場を、いままで提供して下さったことに感謝しかありません。

この学生生活において一つの目標ができました。「地域に必要とされる医師になる」というものです。これは終生のものになりえると考えています。この目標を胸に医師としての道を歩み続けていきたいと考えています。

■ 松原 大勇

今思い返せば熊本大学に入学したのが遠い昔のように感じています。6年前熊本大学への入学が決まり、憧れの大学生活へ思いを募らせていたときに熊本県庁から一通の手紙が届きました。地域枠合格者は入学前の3月に入学前説明会のため熊本大学に集合するようという内容でした。熊本県庁から直接の連絡であったため、大変緊張して大学に足を運んだ記憶があります。恐る恐る参加してみると、地域医療ゼミの先輩方が新入生のために入学後の過ごし方を親切に教えてくださるというものでした。大学生活について無知であった新入生にとって大変役立つ話ばかりであり、おかげで大きな苦労もなく新生活を始めることができました。今思えば入学前から地域医療ゼミの先輩方にはお世話になっていました。

入学してから毎月行われる地域医療ゼミや夏季実習などイベントが多くありました。特に夏季実習は低学年から毎年楽しみにして参加していました。低学年では基礎の授業が中心であり実際に地域医療の現場を体験できることだけで貴重な経験でした。学年が上がり臨床現場で実習を行うにつれて夏季実習に対する意味合いが変わってきました。特に5年生での夏季実習は印象に残っています。自分たちが学生を中心となり微力ながら実習の運営に関わることで、夏季実習の開催にあたり多くの方の協力の上で行われていることに改めて気付かされました。毎年何不自由なく実習に参加できていたことに感謝しています。

また、6年間を通じて地域医療・総合診療実践学寄附講座の先生方、事務の方々には非常にお世話になりました。迷惑をかけることが多々あったと思います。暖かく見守っていただき本当にありがとうございました。これから医師国家試験を無事に突破し熊本の地で医師としての一步を踏み出したいと思います。

■ 内藤 貴一

振り返ってみると長いようで短かった6年間。本当にあっという間でした。まず個人的なことから振り返りたいと思います。東京から熊本にやってきて勝手が違う部分に苦労したこともありました。特に金銭面で悩んでいたところ、熊本県医師修学資金貸与制度の中途採用が始まり藁にもすがる思いで応募して採

用していただいたときのことは今でも覚えています。残念ながら4年次にはテスト期間をうまく乗り切れず留年してしまい、生活費を稼ぎ出すためにあるビジネスホテルで室内清掃のアルバイトをしました。ここでは高齢な方もいて厳しい労働環境の中働いている姿を目の当たりにしました。あえてこの経験を文章に残す理由は、あの頃に見た一言では言い表せない光景とそれに対する責任感を失いたくないからです。自分が果たすべき義務と学びやへの希望を胸に臨床研修に向かおうと覚悟しております。

次に地域枠の活動を振り返りたいと思います。地域医療に関して非常に多くを勉強させていただきました。熊本県は全国平均よりも医師が多い県ですが、そんな熊本県でも医師の偏在により医師が不足している地域が少ないことを知りました。これからは地域医療に携わる首都圏出身者として「医師偏在」の問題にこれから一石を投じたいと思います。地域医療に関わる「楽しさ」「やりがい」そして「メリットや利点」を発信していくとともに「情報通信技術(5GやIoT)」を通して地域医療がこれからどんどん変化していくことをほぼ確信しております。これからは「地域医療が最先端」という気持ちでキャリアを形成することに期待が高まります。

■ 中嶋 誠也

時が経つのは早いもので、勉強や部活で追われるように過ごしているとあっという間に長い長い学生生活の最後の六年間が経ってしまった。その過ぎ去る日々の中で時折、地域医療に将来携わる身であることを思い出させてくれたのが地域医療ゼミであった。低学年の時分から将来の自身の働く姿を想像することは、長い医師としてのキャリアを考えるのに一役を買ってくれたと感じたので大変有意義な時間を過ごせたと思う。その中でも特に記憶に残っているのは一年の夏季合宿と、最後の幹部学年として運営していたゼミのことである。

最初の夏季合宿では阿蘇方面での実習で、自分は山都町包括医療センターそよう病院で実習をさせていただいた。まだ医学的知識も少ない中でとにかく地域医療の雰囲気を感じようと臨んでいたことを記憶している。その中で出会った医師の一人に、自分が目標とすべき医師像に合致する先生がいらっしゃったため、その出会いが六年間の最初にあったことは大きな収穫であった。長い学生生活の中にはテスト勉強や実習で忙しく精神的にも辛い時期はたくさんあったが、その都度立ち止まりつつも迷わずにここまでこれたのはその出会いによって自分の目指すべき姿や方向の軸がこの時にはっきり定まったからだと感じている。

また、自分が幹部学年となりゼミを運営していく一部となった時には、もちろん責任感が芽生えたからでもあるが、後輩達に伝える立場になって改めて『地域医療ゼミ』というものを考え直す機会が自分に生まれた。自分はシネメデュケーションというテーマを扱ったが、単なる映画鑑賞に終わらせずにどれだけ各々の考えを引き出せるか、どれだけ医療における考えるべき問題に関与させられるか、などを寄附講座の方々と意見を擦り合わせる内に、ゼミの運営はシンプルなようでとても難しく、また大変やり甲斐のあるものだと感じた。とても良い機会を頂けたと思っている。

六年間でお世話になったことを忘れずに、自分の身につけた医療をしっかりと地域に還元できるようにこれからも努力していきたいと思う。

■ 原井 亮太

私は元々他大学の文学部で哲学を学んでいました。専門は言語哲学と呼ばれる分野で、特に固有名詞の意味という、おおよそ医療と関わりもなさそうな事項について他者と議論を交わしていました。はじめに医学に関心を持ったのも、言語と脳の関係について生物学的知識を得たいという程度であったと記憶しています。ちょうどそのころは、東日本大震災や原発事故が発生し、医療に関わる重要なトピック、言説が多く噴出している時期でした。その頃何ら医学的知識を持たない私は、様々な自然科学の専門家たちが、人文科学の目から見ればあまりにもナイーブな物言いをすることにショックを受けました。そうした見方をもつ自分が、何か医療に貢献できることがあるのではないかと考え、医師を志すようになりました。

幸運にも熊本大学に拾って頂き、医学生となった後は、医師就学資金を頂けたおかげで勉学に集中することができました。その他、柴三郎プログラムや各種奨学金の援助により、海外研修や研究室インターンなどに参加することで、ほんの一端ではありますが、基礎研究という新たな視座を得ることもできました。3年時には、熊本地震も経験しました。医学部入学前に、東日本大震災でメディアを通して目の当たりにしたような風景、それまで隠匿されていたような問題が噴出する様を、今度はより身近なものとして体験し、より一層自分が無力であると感じました。

その後臨床実習や国家試験を経て現在に至るこの6年間を振り返ると、私が達成できたことは、せいぜい医学部のカリキュラムについていくこと、それに加えて基礎研究を少し齧る程度のことであったと思い

ます。6年間で得た知見を活かし、人文科学や自然科学といった垣根を超えた危機的問題の解決に貢献できる人間になるという課題については、来年度より医師として熊本で働き地域医療に貢献しながら追求していきたいと考えております。6年間支援頂いた皆様、ありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。

■ 諸岡 慎士

今こうして医学生としての6年を振り返ってみると、あっという間の6年間だったということが正直な気持ちです。医師が不足しがちな地域で医師として働きたいと思い、この大学に入学しました。低学年時は特に診療科に拘らずに、いわゆるcommon diseaseほどしっかりと鑑別出来るようにしなければと、そのような疾患ほど時間をかけて勉強するよう心がけてきました。

やがて病院内での臨床実習が始まり最初に実感したことは、患者さんの多くが複数の疾患を合併していることが多いため、対応が一つに決まっている訳ではなく、常に患者さんの状態を観察し、考えながら治療に臨まなければならないということでした。人の命を預かることがいかに大変な仕事なのかということを感じさせられました。

また地域の病院に実習に行った際によく聞いたこととして、医師の数に対して患者さんの数が多いため、時間をかけて診ることが難しいということでした。限られた人員・時間の中では、患者さんの抱えている複数の問題の軽重を判断し、主訴に沿った処方なりを素早く行わないと医療現場が回っていかないということでした。この繁忙さはじっくりと深く疾患について考えたいという医師にとっては悩ましいものであり、地域医療に従事するという選択の障壁の一つになると思いました。

臨床実習自体は私たちの年次から長くなったのですが、卒業試験までの時間が足りないと感じたこと以外はとても有意義でした。特に指導医にその場ですぐに質問できるということが私にとって一番良かった点です。ただ患者さんと触れあう時間を多くの診療科で取れなかったことが、これから実際の医療現場で働くにあたっての不安な点であり、心残りの部分でもあります。

これから熊本県の様々な地域で医師として働くにあたり、実に多くの悩ましい課題と直面することになると思いますが、卒業に当たって医師として頑張ろうと思った今の気持ちを忘れず、周囲の指導を仰ぎながら、患者さんに向き合っていきたいと思います。

■ 吉田 龍也

大学の6年間は自由時間が多かったこともあり、それまであまり習慣のなかった読書をするようになりました。決して多読ではないのですが、その中でも面白かった本を2冊紹介させていただきます。

1「サピエンス全史」(ユヴァル・ノア・ハラリ著、柴田裕之訳、河出書房新社)

ホモ・サピエンスが何故生き残り、どう発展してきたのかを、「認知革命」「農業革命」「科学革命」の3つの革命を通して紐解きます。特に、虚構を信じられようになった「認知革命」が面白く、当然のように信じている国家や貨幣や人権がすべて虚構であることに気づかされます。また、人類史を辿るだけに留まらず、文明は人類に幸福をもたらしたかという視点からも考察します。少々ボリューミーですが、最後までワクワクしながら読了できると思います。未来についての考察である、続編の「ホモ・デウス」もおすすめです。

2「銃・病原菌・鉄」(ジャレド・ダイヤモンド著、倉骨彰訳、草思社)

「なぜ白人たちは多くのものを発達させてニューギニアに持ち込んだのに、私たちニューギニア人は自分たちのものといえるものがないんですか？」という現地人の問いかけから始まり、分子生物学や言語学などの広範な知見を積み上げて解明する名著です。東西方向に伸びる大陸こそが究極の要因であるとする筆者の主張には目から鱗です。

2冊とも人類史の本になってしまい申し訳ありません……。最後に、おすすめのYouTubeチャンネルも紹介させていただきます。

3「予備校のノリで学ぶ大学の数学・物理」

大学レベルの数学や物理を中心とした理系科目の授業動画が多数アップされています。講師のたくみさんは、東京大学大学院卒業、博士課程進学とともに、6年間続けていた予備校講師を退き、このチャンネルを開設されました。非常に専門性の高い内容を、予備校講師の経験をいかし、初学者にもわかりやすく解説されています。

6 業績

1. 地域医療支援センター

◆ 論文、執筆

❑ Rieko Goto, Tatsuya Kondo, Kaoru Ono, Sayaka Kitano, Nobukazu Miyakawa, Takuro Watanabe, Masaji Sakaguchi, Miki Sato, Motoyuki Igata, Junji Kawashima, Hiroyuki Motoshima, Takeshi Matsumura, Seiya Shimoda and Eiichi Araki. Mineralocorticoid Receptor May Regulate Glucose Homeostasis through the Induction of Interleukin-6 and Glucagon-Like peptide-1 in Pancreatic Islets. Journal of Clinical Medicine. 2019 May; 8(5): 674. DOI: 10.3390/jcm8050674 PMID: 31091693 PMCID: PMC6571682

❑ Kaneko M, Van Boven K, Takayanagi H, Kusaba T, Yamada T, Matsushima M. Multicentre descriptive cross-sectional study of Japanese home visit patients: reasons for encounter, health problems and multimorbidity. 2019 Oct 5. pii: cmz056. doi: 10.1093/fampra/cmz056. PMID: 31586446 DOI: 10.1093/fampra/cmz056

❑ 藤本 晴香, 加島 雅之, 吉野 俊平, 高橋 和弘, 早野 恵子, 尾崎 美紀子, 谷口 純一. 『支部セミナーから 専門医部会 九州支部教育セミナー(企画:専門医部会) 内科診療アップデート』. 日本内科学会雑誌 108(10), 2196-2203, 2019-10-10

❑ 松下 正輝, 古川 昇, 谷口 純一, 加藤 貴彦, 西谷 陽子, 尾池 雄一, 安東 由喜雄. 『意見：医学教育における性的マイノリティに関する講義の実践』. 医学教育 48(4), 265-266, 2019

❑ 谷口 純一, 松井 邦彦, 後藤 理英子, 高柳 宏史, 前田 幸佑, 佐土原 道人, 小山 耕太, 田宮 貞宏, 古川 昇, 松下 正輝. 『地域医療実習に行動科学・社会科学的視点をどの様に導入するか?』. 医学教育 50(Suppl.) 235 - 235 2019年7月

❑ 高柳 宏史, 松井 邦彦. 『水俣から学ぶ地域志向性』. 医学教育 50(Suppl.) 232 - 232 2019年7月

❑ 谷口 純一, 後藤 理英子, 高柳 宏史, 古川 昇, 松下 正輝, 田代 雅文, 三好 智子, 西谷 克己. 『我が国の医学教育におけるマインドフルネスに関する今後の展開の可能性(第2報)』. 医学教育 50(Suppl.) 127 - 127 2019年7月

❑ 高柳 宏史. 『【高齢者医療におけるAIの活用】 高齢者医療におけるAI(Artificial Intelligence:人工知能)への期待』. 日本老年医学会雑誌 56(3) 254 - 259 2019年7月

❑ 高柳 宏史. 『プライマリ・ケアの理論と実践(第29回) ICPCを用いたプライマリ・ケアにおける研究』. 日本医事新報 (4976) 8 - 9 2019年9月

◆ 研究

❑ 谷口 純一 (共同研究者)
『EPAを基盤とした基盤とした段階的若手指導医養成プログラム開発研究』
研究種目：基盤研究B, 研究分野：医療社会学, 期間 2017-2021

❑ 後藤 理英子
『鉍質コルチコイド受容体を介した膵島細胞の慢性炎症とGLP-1分泌調節機序の解明』
研究種目：基盤研究C, 研究分野：代謝学, 期間：2017-2020

❑ 後藤 理英子 (共同研究者)
『女性医師の就労継続・キャリア形成推進のための実証的提言：フィンランドとの比較研究』
研究種目：基盤研究C, 審査区分：社会学関連, 期間：2019-2022

❑ 後藤 理英子
『日本の男性医師と女性医師のアカデミックキャリアの構築にはどのような違いがあるか。』
『ステロイド投与による耐糖能悪化の機序及び治療法の検討』

◆ 学会発表

- ❑ 高柳宏史，【三年次を対象にした学外での早期臨床体験実習の取り組み】，第9回九州地域医療教育研究会，2019/4/20
- ❑ 内藤貴一，高柳宏史，松井邦彦【地域医療実習について】，第9回九州地域医療教育研究会，2019/4/20，口演
- ❑ 松原大勇，川中みなみ，吉田龍也，高柳宏史，松井邦彦，【水俣芦北地域で実施した平成30年度夏季地域医療特別実習の報告】，第10回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会，2019/5/17-5/19
- ❑ 谷口純一，【熊本県地域医療支援センターの活動報告】，第10回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会，2019/5/17-5/19
- ❑ 後藤理英子，【膵α細胞の鉍質コルチコイドレセプターは膵島におけるIL-6とGLP-1分泌を制御する】，第62回日本糖尿病学会年次学術集会，2019/5/23-5/25
- ❑ 谷口純一，【セッション名：プロフェッショナリズム①】，第51回日本医学教育学会大会，2019/7/26，座長
- ❑ 谷口純一，【地域医療実習に行動科学・社会科学的視点をどの様に導入するか？】，第51回日本医学教育学会大会，2019/7/26-7-27
- ❑ 谷口純一，【我が国の医学教育におけるマインドフルネスに関する今後の展開の可能性（第2報）】，第51回日本医学教育学会大会，2019/7/26-7-27
- ❑ 後藤理英子，【熊本県における医師の働き方改革に必要な支援とは？】，第51回日本医学教育学会大会，2019/7/26-7-27
- ❑ 高柳宏史，【水俣から学ぶ地域志向性】，第51回日本医学教育学会大会，2019/7/26-7-27
- ❑ 渡邊光紗，高柳宏史，松井邦彦【熊本大学医学部地域枠 夏季地域医療特別実習について】第24回熊本県国保地域医療学会 2019/10/26

◆ 講演会（講師）

- ❑ 谷口純一，【医療者教育におけるマインドフルネス入門 一私とあなたのセルフケア】，第72回医学教育セミナーワークショップ,2019/5/25-5/26，講師
- ❑ 高柳宏史，【南海トラフ地震が起きたときに被災地で支援をどう受けるか～被害を最小限に食い止めるためのノウハウをみんなで語り合おう～】，第10回 日本プライマリ・ケア連合学会学術大会，2019/5/17，インスタレクトグループ
- ❑ 後藤理英子，【熊本県における医師の働き方改革】，第10回 日本プライマリ・ケア連合学会学術大会，2019/5/19,シンポジウム
- ❑ 後藤理英子，【女性医療者としてのキャリアを考える】，第6回 九州山口家庭医療・総合診療セミナー，2019/6/30，セミナー
- ❑ 高柳宏史，【私達の診ている地域では災害が起こるのです】，第31回学生・研修医のための家庭医療学夏季セミナー，2019/8/3-8/5，セッション
- ❑ 後藤理英子，【医療人の働き方改革を進めるために～熊本県における調査と全国の事例より～】，熊本市公的病院等地域連携協議会，2019/8/20，基調講演
- ❑ 高柳宏史，【包括的統合アプローチ】，第41回 KOPe ミニレクチャー，2019/8/20
- ❑ 高柳宏史，大倉佳宏，山田隆司，大野每子，山岡雅頭，竹島太郎，【ICPCを知らう～総合診療のコード化・データベース化にむけて】，日本プライマリ・ケア連合学会 第17回秋季生涯教育セミナー，2019/9/22
- ❑ 谷口純一，第5回福岡徳洲会病院JMECCコース，2019/10/20、講師
- ❑ 前田幸佑、高柳宏史、佐土原道人、松井邦彦，【外来で役立つ地域特性と医療連携について】，生涯教育・研修医セミナー，2019/10/21，口演

- ❑ 後藤理英子，【誰もが輝くための、熊本県における女性医師支援と課題】，第57回日本糖尿病学会九州地方会，2019/10/25，ワークショップ
- ❑ 谷口純一，第5回看護師特定行為研修指導医講習会，2019/10/27，講義/グループワーク指導
- ❑ 谷口純一，第64回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップin九州・熊本，2019/11/4
- ❑ 谷口純一，後藤理英子，令和元年度九州大学病院医師臨床研修指導医講習会，2019/11/15-11/16，タスクフォース
- ❑ 谷口純一，北区役所管内地域包括支援センター看護機能連絡研修会，2019/11/22，講師
- ❑ 谷口純一，令和元年度山口大学医学部附属病院卒後臨床研修指導医養成講習会，2019/11/28，講師
- ❑ 後藤理英子，第29回臨床内分泌代謝Update，2019/11/29，座長
- ❑ 谷口純一，第154回臨床研修指導医講習会，2019/12/14，講習会運営
- ❑ 谷口純一，令和元年度福岡大学指導医講習会，2019/12/21-12/22，講師（タスクフォース）
- ❑ 高柳宏史，【かかりつけ医によるメンタルヘルス診療】，熊本県医師会 令和元年度日本医師会生涯教育講座，2019/12/28，講義
- ❑ 前田幸佑、高柳宏史、佐土原道人、松井邦彦，【アドバンス・ケア・プランニング～いのちの終わりについて考える～】，熊本県医師会 令和元年度 日本医師会生涯教育講座，2019/12/28，口演
- ❑ 谷口純一，山口県医師会主催「指導医のための教育ワークショップ」，2020/1/18-1/19，タスクフォース
- ❑ 後藤理英子，令和元年度女性医師の勤務環境整備に関する病院長、病院開設者・管理者等への講習会，2020/2/5，講師
- ❑ 谷口純一，第16回産業医科大学病院診療研修指導講習会，2020/1/31-2/1，講師
- ❑ 高柳宏史，【ポートフォリオセッション】，第3回熊本総合診療研究会，2019/2/11
- ❑ 谷口純一，令和元年度熊本県かかりつけ医うつ病対応力向上研修，2020/2/15，講師
- ❑ 谷口純一，【指導医養成講習会】，日本プライマリ・ケア連合学会 第15回九州支部総会・学術大会，2019/2/22
- ❑ 高柳宏史，【指導医養成講習会】，日本プライマリ・ケア連合学会 第15回九州支部総会・学術大会，2019/2/22
- ❑ 藤谷直明，飛松正樹，高柳宏史，山入端浩之，田浦尚宏，崎山隼人，村田祥子，酒井達也，石原あやか，【教育や指導でなんかうまくいかないと思ったら～教育の困難事例への挑戦】，日本プライマリ・ケア連合学会 第15回九州支部総会・学術大会，2019/2/23
- ❑ 後藤理英子，第15回若手医師のための家庭医療学冬季セミナー，2020/2/28，講師・ファシリテーター

◆ 受賞

- ❑ 後藤理英子，第8回西予市おイネ賞事業 全国奨励賞，2019/8/5
- ❑ 松井邦彦，谷口純一，高柳宏史，令和元年度熊本大学教育活動，入賞，地域医療教育の充実の向上に関する貢献，2019/11/15

2. 地域医療・総合診療実践学寄附講座

◆ 論文、執筆

- Kim-Mitsuyama S., Soejima H., Yasuda O., Node K., Jinnouchi H., Yamamoto E., Sekigami T., Ogawa H., Matsui K. Total adiponectin is associated with incident cardiovascular and renal events in treated hypertensive patients: subanalysis of the ATTEMPT-CVD randomized trial. Sci Rep. 9, 16589 (2019).
- Kim-Mitsuyama S., Soejima H., Yasuda O., Node K., Jinnouchi H., Yamamoto E., Sekigami T., Ogawa H., Matsui K. Anemia is an independent risk factor for cardiovascular and renal events in hypertensive outpatients with well-controlled blood pressure: a subgroup analysis of the ATTEMPT-CVD randomized trial. Hypertens Res. 42, 883-891 (2019).
- Kojima S., Matsui K., Hiramitsu S., Hisatome I., Waki M., Uchiyama K., Yokota N., Tokutake E., Wakasa Y., Jinnouchi H., Kakuda H., Hayashi T., Kawai N., Mori H., Sugawara M., Ohya Y., Kimura K., Saito Y., Ogawa H. Febuxostat for Cerebral and CaRdiorenovascular Events PrEvEntion StuDy. Eur Heart J. 40, 1778-1786 (2019).
- Sakakibara A., Matsui K., Katayama T., Higuchi T., Terakawa K., Konishi I. Age-related survival disparity in stage IB and IIB cervical cancer patients. J Obstet Gynaecol Res. 45, 686-694 (2019).
- Sueta D., Tabata N., Ikeda S., Saito Y., Ozaki K., Sakata K., Matsumura T., Yamamoto-Ibusuki M., Murakami Y., Jodai T., Fukushima S., Yoshida N., Kamba T., Araki E., Iwase H., Fujii K., Ihn H., Kobayashi Y., Minamino T., Yamagishi M., Maemura K., Baba H., Matsui K., Tsujita K. Differential predictive factors for cardiovascular events in patients with or without cancer history. Medicine (Baltimore). 98, e17602 (2019).
- Tabata N., Sueta D., Yamamoto E., Takashio S., Arima Y., Araki S., Yamanaga K., Ishii M., Sakamoto K., Kanazawa H., Fujisue K., Hanatani S., Soejima H., Hokimoto S., Izumiya Y., Kojima S., Yamabe H., Kaikita K., Matsui K., Tsujita K. A retrospective study of arterial stiffness and subsequent clinical outcomes in cancer patients undergoing percutaneous coronary intervention. J Hypertens. 37, 754-764 (2019).
- Yasuda S., Kaikita K., Akao M., Ako J., Matoba T., Nakamura M., Miyauchi K., Hagiwara N., Kimura K., Hirayama A., Matsui K., Ogawa H. Antithrombotic Therapy for Atrial Fibrillation with Stable Coronary Disease. N Engl J Med. 381, 1103-1113 (2019).

◆ 研究

- 佐土原 道人
『地域医療研修における研修医の成長とレジリエンスに関する多施設研究』
平成30年度科学研究費助成事業 研究種目：挑戦的研究(萌芽)， 研究分野：教育学およびその関連分野， 期間：2018-2021

◆ 学会発表

- 久保崎 順子，北村 泰斗，空田 健一，松田 圭史，中村 孝典，前田 幸佑，小山 耕太，田宮 貞宏，佐土原道人，谷口 純一，松井 邦彦，【社会的要因で転院に苦慮した末期肝不全の症例】， 第10回 日本プライマリ・ケア連合学会学術大会， 2019/5/17-19， ポスター
- 空田健一，北村泰斗，久保崎順子，田中顕道，中村孝典，高寄清香，中野万理，松本加奈子，安成英文，小山耕太，田宮貞宏，松井邦彦，【地域を担う開業医との訪問診療、市民公開講座での専攻医としての学び】， 第10回 日本プライマリ・ケア連合学会学術大会， 2019/5/17-19， ポスター
- 佐土原道人，2年次研修医の労働・職場環境および将来の専門研修プログラムに対する認識の推移，第92回産業衛生学会，2019/5/22-25，口演
- 前田幸佑，刈谷龍昇，Jutatip Panaampon，Gunya Sittithumcharee，岡田誠治，【エロツズマブはVγ9Vδ2T細胞の原発性滲出性リンパ腫に対する抗腫瘍活性を増強する】， 第81回 日本血液学会学術集会， 2019/10/11-13，口演
- 前田幸佑，佐土原道人，井手尾勝政，入江弘基，松井邦彦，【重度の側腹部痛で救急搬入され、診断に苦慮した孤立性上腸間膜動脈解離の1例】， 第20回日本病院総合診療医学会学術総会，2020/2/21，口演

◆ 講演会（講師）

- 松井邦彦，【第10回日本プライマリケア連合学会学術集会】， 座長，2019/5/18-19
- 佐土原道人，【第151回臨床研修指導医講習会（全国自治体病院協議会）】， タスクフォース，2019/8/23-25
- 佐土原道人，【第19回日病院総合診療医学会】， 座長，2019/9/14
- 佐土原道人，【名古屋大学医学部附属病院 第1回看護師特定行為指導者養成講習会】， タスクフォース，2019/10/27
- 佐土原道人，【全日本病院協会 第6回看護師特定行為指導者養成講習会】， タスクフォース，2019/11/2
- 佐土原道人，【全日本病院協会 第7回看護師特定行為指導者養成講習会】， タスクフォース，2019/11/3
- 松井邦彦，【第6回地域医療講座講演会】， 久留米大学医学部，講義，2019/11/8
- 松井邦彦，【臨床疫学 診療ガイドラインガイドラインの評価について】，聖路加国際大学公衆衛生大学院，講義，2019/11/19
- 松井邦彦，【令和元年度山口大学医学部附属病院卒後臨床研修指導医講習会】，タスクフォース，2019/11/28-30
- 佐土原道人，【第25回徳洲会グループ臨床研修指導者養成講習会】，タスクフォース，2019/12/21-22
- 佐土原道人，【全日本病院協会 第9回看護師特定行為指導者養成講習会】，タスクフォース，2019/12/22
- 佐土原 道人，【行動医学に基づく患者の行動変容支援】， 熊本県医師会2019年度日本医師会生涯教育講座，2019/12/28
- 前田 幸佑，【「アドバンス・ケア・プランニング」～いのちの終わりについて考える～】， 熊本県医師会2019年度日本医師会生涯教育講座，2019/12/28
- 高柳 宏史，【かかりつけ医によるメンタルヘルス診療】， 熊本県医師会2019年度日本医師会生涯教育講座，2019/12/28
- 佐土原道人，【名古屋大学医学部附属病院 第2回看護師特定行為指導者養成講習会】，タスクフォース，2020/1/26
- 佐土原道人，【第20回日病院総合診療医学会】， 座長，2020/2/21
- 松井邦彦，【第15回プライマリ・ケア連合学会 九州支部学術大会】，座長，2020/2/23

3. 玉名教育拠点

◆ 論文、執筆

- Amano M, Bulut H, Tamiya S, Nakamura T, Koh Y, Mitsuya H. Amino-acid inserts of HIV-1 capsid (CA) induce CA degradation and abrogate viral infectivity: Insights for the dynamics and mechanisms of HIV-1 CA decomposition. Sci Rep. 08 Jul 2019, 9(1):9806. DOI: 10.1038/s41598-019-46082-2 PMID: 31285456 PMCID: PMC6614453

◆ 学会発表

- 小山 耕太，前田幸佑，田宮貞宏，谷口純一，松井邦彦，【「地域での総合診療医育成」～地域の医療機関はどう考えているのか～】， 第9回九州地域医療教育研究会，2019/4/20，口演
- 北村泰斗，小山耕太，田宮貞宏，【血清学的梅毒患者の一例】， 第10回 日本プライマリ・ケア連合学会学術大会， 2019/5/17-19， ポスター
- 武末真希子，小山耕太，田宮貞宏，【アルコール多飲や低栄養を背景に有し、Streptococcus anginosus groupによる肝膿瘍の治療後に、断酒継続の行動変容に成功した一例】， 日本プライマリ・ケア連合学会 第15回九州支部総会・学術大会，2020/2/22-23，口演

◆ 講演会（講師）

- 小山 耕太，【地域での臨床研修医育成】， 宇土地区医師会学術講演会，2019/8/21
- 小山 耕太，【「病院総合医教育の最先端 ～新たな挑戦～」～地域での地域医療実践教育拠点による総合診療及び総合診療医教育体制の有用性の検証～】， 第19回日本病院総合診療医学会学術総会，シンポジスト，2019/9/14-15

7 おわりに

1. 教員から

■ 谷口 純一 特任准教授

今年度も、昨年度に引き続き、個人的には、大学に設置された地域医療支援センターの教員として、同センター業務と、それ以外の従来取り組んできた内外の業務とを、バランスを取りながら、整合性を付けつつ、業務遂行を行なったつもりです。

地域医療支援センターの毎週月曜日の定例ミーティング、熊本県医療政策課との月1回の定例の連絡調整会議、地域医療機関への訪問、地域医療機関への診療支援、など機構業務の確実な遂行が出来たと感じております。

また、地域医療・総合診療実践学寄附講座とも連携を取りながら、新しい総合診療専門医の更なる養成に関して企画・立案しておりますが、次年度以降、それらを実施して行ければと考えております。

具体的には、地域医療支援機構としては、自分の活動として、特に、

- 1) 県内地域医療機関関係者への訪問、面談と分析・対応検討
- 2) 総合診療専門医の養成に関しての企画・立案
- 3) 地域医療関連の卒前教育の実施
- 4) 修学資金貸与制度の制度運営の実施と整備
- 5) 地域医療機関への診療・教育支援
- 6) その他、機構関連諸業務（運営会議、連絡調整会議、理事会、等）

また、機構業務以外の、個人的な大学内外業務の方は、

- 1) 大学病院総合診療科外来診療
- 2) 医学部医学科の卒前教育での複数の授業・実習
- 3) 大学卒前医学教育の横断的な業務補佐
- 4) 卒後初期研修・専門医研修（総合診療）の指導・プログラム管理補佐
- 5) 学外の様々な依頼業務（共用試験実施評価機構委員、臨床研修指導医養成ワークショップ等）
- 6) 学会や行政の各種委員会等（熊本総合診療研究会の運営、内科学会専門医部会、日本専門医機構総合診療専門医部会、など）

に取り組んだつもりです。

上記業務は、一定の成果が上がったと思われますが、これから更に充実・整理させていく、或いは新たに取り組むべく必要性のある部分もあります。次年度は、上記に加え、個人的には、新しい立場での、診療業務、地域医療支援、総合診療医の養成、卒前の医学教育の充実、等に向け、自部署関連の協力・強化体制の強化と、外部のご理解・ご支援を更に活かせる様に取り組んでいく所存です。

■ 佐土原 道人 特任助教

地域医療・総合診療実践学寄附講座にお世話になり、まる3年が経ちました。診療支援先としては、蘇陽病院、阿蘇医療センターにお世話になりました。以前、診療支援先として行っていた天草地域医療センターに第2の地域医療教育拠点できたことは、さらなる第一歩となりました。大学病院での診療では、救急部での診療が加わり、総合診療部の外来が週2回から1回に減り大変残念で、働き方改革も踏まえ、ようやくタイムカードでの客観的な打刻が導入され、これまでと労務環境が変わって多少戸惑っております。

今年度は、研修医とはあまり現場の指導の接点がありませんでしたが、学生の課外活動として上球磨地域での夏季特別実習を計画、実行段階まで係らせて頂き、今後の地域医療教育にとって大変参考になりました。関係各所の皆様方、大変ありがとうございました。前年度に続き、看護師特定行為指導者養成講習会の増加、看護大学院での授業などがあり、学会発表や学会活動は低調でしたが、資格としては、日本医師会認定産業医の資格と日本医療メディエーター協会の認定Bを取得しました。プライベートとしましては、自宅を新築し、建築物のレジリエンス、建築業の労働衛生や住宅の防火・耐震、住宅環

境基準、地域のサステナビリティなどに詳しくなりました。地域医療や総合診療の実践を行うにあたり産業衛生の幅が広がった気がしています。

来年度は、科研費の最終年度となりますので、成果をきちんとまとめたいと思います。今後ともよろしく願いいたします。

■ 後藤 理英子 特任助教

今年度は熊本県女性医師キャリア支援センターの取り組みを知っていただく様々な機会をいただきました。医師だけでなく、医療を担う多職種の働き方改革についても考える契機となり、私自身も大変勉強になりました。

また、11月には第8回西予市お伊ネ賞を受賞いたしました。皆様のご支援のおかげで続けることができた活動、熊本県の女性医師支援を、全国的に評価していただけたことに深く感謝申し上げます。熊本県、熊本大学病院、熊本県医師会、熊本市医師会、そのほかにも多くの関係者に協力していただきながら、一丸となって活動を進めてきた結果が、少しずつ身を結んで評価され、今後の活動にも期待を込められての受賞だったと、身が引き締まる思いです。

一方で医療人のキャリア支援を担うには自分自身も研鑽を積んでいく必要性を改めて感じた1年でもありました。基礎研究の仕上げ、学位取得、専門医取得、臨床研究の開始と、様々な経験をすることができました。

すべてのことが、皆様のご協力があって初めて経験できたことです。ご協力いただいております皆様に改めて深く感謝申し上げます。来年度も臨床、研究、教育、キャリア支援に、自他共栄の精神で一歩ずつ前進する所存です。まだまだ未熟者ではございますが、今後ともご指導、ご鞭撻いただければ幸いです。

■ 高柳 宏史 特任助教

診療、教育、研究、学会や研究会活動、家庭と、やはり忙しい1年間でした。それぞれ、まとめたいと思います。

【診療】大学病院の救急と総合診療の外来を行っています。救急外来は多彩な患者さんの診療を通して、大学の各科の先生方と顔を合わせますし、大学のシステムを垣間見ることができるとい点では学びがあります。また総合診療の外来も今の医療システムの中では対応できない患者さんと向き合うことができ、総合診療としてのやりがいを感じたりもします。しかし、自分のフィールドと一番感じるのは御所浦診療所の外来でしょうか。常勤ではないので、住民や地域との距離を感じますが、自分の専門とする家庭医療の実践を一番感じるができるため、毎週外来を楽しみにしています。

【教育】早期臨床体験実習Ⅲ、クリニカルクラークシップ「地域医療」の担当教員をしています。それが一番大きな仕事です。毎年少しずつ修正し改善できていると思います。2019年度ではできなかった「地域医療」に関する指導医講習会を2020年度では開催できればと思っています。地域で学生の指導を担っている先生方とよりコミュニケーションをとり充実した実習内容にできればと思っています。

【研究、学会、研究会活動】特に研究を進めていきたいのですが、なかなか手付かずになってしまっているのが現状です。少しでも進めていきたいと思います。プライマリ・ケアにおけるデータベース構築、ICPCのコード分類の可能性、プライマリ・ケアと災害、それらのテーマについてこれからも深めていけたらと思います。そのためには後進を育てられるように地方の研究会などの活動も活発にできればと思っています。

【家庭】できる範囲、育児・家事を担ってきました。家族との関わりは、自分の支えとなっていることも気づいています。ただ無理はしないように気を付けていこうと思います。

次年度も、引き続き精進してまいります。今後ともよろしくお願い致します。

■ 前田 幸佑 特任助教

2016年4月に当講座に着任し、早4年が過ぎ去ろうとしております。大学病院内での業務としては主に総合診療科外来とER日当直の支援を行って参りました。学生の授業や実習等にも携わり、また、地域医

療支援としては主に上天草市立上天草総合病院で勤務致しました。さらに、社会人大学院生として基礎研究も行っており、2019年10月には日本血液学会学術集会で研究成果を発表し、現在は論文作成に取り組んでおります。また、今後は国際学会での発表を目指し準備を進めているところです。

この1年間を振り返ってみて思うことは、本当に様々な貴重な経験をさせて頂いたということです。大学だからこそ様々なことが経験出来たと言っても過言ではないと思います。ただし、この環境を今後も希望するのか・継続していきたいのかということについては別で、自分の今後の進路について真剣に考えました。その結果、今年度をもって退職しようと決心致しました。もっとアクティブな環境に身を置きたいと思います。

4年間という短い期間では御座いましたが、これまで大変お世話になりました。有難う御座いました。今後も引き続き精進して参りたいと思います。

■ 田宮 貞宏 玉名教育拠点指導医（公立玉名中央病院 副院長／総合診療科）

玉名拠点が設置された公立玉名中央病院の2019年度を振り返ると、前年度より噴出した種々の問題を抱えつつ始まり、新病院に開業が近づく中、どこか焦燥感がつきまとう毎日だったような気がしております。

総合診療科としても総合診療専門医プログラムのリクルートも苦戦を強いられ、今年度は1年次の専攻医がいないう状況でのスタートとなりました。総合診療科開設以来、院内外での業務や活動が増えている最中ですので、かなり不安を感じておりました。

蓋を開けてみますと、あらたにスタッフに加わっていただいた武末先生、中村先生の両医員には多大な負担を掛けてしまう結果になっておりますが、おかげで今年度も診療および教育のレベルはさらに向上していると感じています。また、小山部長は診療・教育業務に留まらず、新病院の診療体制の構築の中心となり様々な困難な課題に取り組み続けてくれています。このような頼もしい仲間に恵まれていることに感謝するとともに、彼らや初期研修医、専攻医らの日々の労働環境の改善、キャリア支援は喫緊の課題と認識しており、私としては焦燥感を持続けることが大切な仕事と思い直し課題に対処して行きたいと考えております。最後に今年度も変わらず、ご支援、ご助言いただいた皆様に御礼を申し上げご報告とさせていただきます。

■ 小山 耕太 玉名教育拠点指導医（公立玉名中央病院 総合診療科部長／総合診療科）

「総合診療科の医師として、部長として」

2019年は公立玉名中央病院としても、総合診療科としても「変化の年」でした。病院に関係する不祥事に始まり、管理部門では新理事長をお迎えしました。診療科としては田宮貞宏部長が副院長に就任され、私が総合診療科部長に就きました。それまで診療・教育業務に自分の力のほぼ全てを注力すれば良い状況から一変、それまでとは違う意味(様々な意味)で重責が伴う管理の仕事が激増しました。

公立玉名中央病院は、2021年度末を目途に玉名地域保健医療センターと合併し、新病院「くまもと県北病院」を新玉名駅近くに開院します。それに向け、これまで以上に地域の期待に応えるべく、新たな診療体制も構築されます。この診療体制改革プロジェクトの診療調整部門を担当させて頂くことにもなり、院内のみならず、かなり多くの方々と共同で調整を行っております。改めて、多くの方々のお力添え頂いたおかげで、これまでも当院が機能していたことを実感・感謝する毎日です。そして、これからもその「地域の力」は必要不可欠と言えます。

2020年は、「改革の年」になると思います。地域の医師として、病院の総合診療科部長として、新病院の診療調整リーダーとして、「地域に貢献できる医師は地域で育てる」を念頭に、玉名地域の診療と、

熊本県の総合診療教育を牽引する総合診療科を、これからも発展的に展開することをここにお約束します。そして、メイドイン玉名の医師が、県下全土で活躍できるようなシステムを今後も構築し続けます。

どうか、皆様のご指導とご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

個人的には、論文執筆もしたいところです。誰か、手伝って！(笑)



新病院完成予想図

■ 高杉 香志也 天草教育拠点指導医（天草地域医療センター 総合診療科）

思い返すと、一年前の2019年の今頃は、地域医療実践天草教育拠点立ち上げに際し、医師会の先生方への挨拶、総合診療科の紹介スライドを作っていました。

天草へ赴任後は怒濤のような日々でしたが、松井先生、谷口先生、天草地域医療センターの原田院長先生をはじめとした医局、スタッフの方々の御協力により、総合診療科 天草教育拠点としての立ち上げは順調であったと思います。あらためて感謝を申し上げます。

天草での当科の役割は、病院総合診療医として期待されている所が大きいものでした。common diseaseから希少疾患までの幅広い診断、救急対応から慢性期対応、HCU管理から一般病棟管理まで幅広く病院総合診療を学ばせて頂きました。天草地域の拠点病院であるため重症疾患は多いものの、医局間コンサルトはスムーズで画像診断機材、素晴らしい読影をして頂く放射線科Dr.も揃っており非常に働きやすく、研修医、専攻医が学ぶ場としても非常に素晴らしい病院だと感じています。

ここまで記載したのは2月下旬、一身上の都合で3月までで退局させて頂く事となり、皆様へ大変申し訳なく思い筆が止まっていました。このまま寄稿はせずフェードアウトしようと目論んでいたのですが、かえって御迷惑おかけする事となりそうで3/9急いで執筆しています。

次の赴任地である与論島は、人口5300人、周囲25km、空と海と笑顔の素敵な小さな島なのですが、医療情勢はとても苦しいものとなっています。ここで学んだ事を生かし地域医療を継続する事、又そこで出会う若い医師と共に学ぶ事（できれば熊大総合診療科のリクルートにつなげる事！）を皆様への恩返しとして頑張っていこうと思っています。

本当にありがとうございました。

■ 鶴田 真三 天草教育拠点指導医（天草地域医療センター 総合診療科）

2019年4月に天草地域医療センター総合診療科および教育拠点の新設に際し、高杉先生、空田先生とともに赴任させていただきました。久しぶりの2次医療機関、久しぶりの病棟管理でしたが、高杉先生はじめ周囲の方々に恵まれ、診療面についてはなんとか約1年、大きな問題なくすごすことができました。

しかし、1年前に自分自身が天草でやりたいと思っていたこと（地域の多職種との枠を超えた連携、ヘルスプロモーションなど地域での活動、総合診療医としてのシステムづくり、等）については、正直ほぼなにもできておらず、反省の思いばかりです。

現状、ほとんど地域にでることができていません。力不足を実感しています。天草の広大な範囲で、医療機関や福祉機関も多い点でも、予想はしていましたが難しさを実感しました。これからも、まずは限られた範囲でももっと人脈を広げて努力していきます。よりよい地域医療につなげていけるよう、少しずつ活動していきたいと思っています。天草地域の医療の問題点、これから自分たちが主になって貢献すべき課題は、天草に赴任したからこそ見えてきた部分もあります。次の1年では、少しは具体的に前進したいと思います。

また、教育拠点でありながら初期研修医や学生の指導を行う機会がほとんどありませんでした。初期研修医や学生に、研修や実習で総合診療科を選んでもらえるよう、楽しく、学びを提供できるよう、地道に努力していこうと思います。

個人的には、自分の力不足のためになかなか充実した日々を送ることができず、思い悩む毎日です。しかし、天草地域医療センターに在籍するのもあと1年なので、このまま終わらず、今後の地域医療センターに関わる医療、教育のためにも、何らかの形をつくっていかうと思っています。もちろん、天草地域全体に対する貢献は今後もずっと行っていくつもりなので、課題や障壁は多々ありますが、ひとつひとつ、できることを具体的に行います。なかなか貢献できておらず申し訳ありませんが、今後ともご協力をよろしくお願いいたします。

2. 事務から

光陰矢の如しと言いますが、あっという間の6年間でした。振り返ってみますと、最初の2年間は、修学資金貸与医師の皆様の勤務先等の制度設計や地域教育拠点の整備など基礎づくりの時期でした。その後の2年間は、割りとレールに乗って淡々と業務を行ってきたような気がします。最後の2年間は、医療法等の改正があり、県主導での新しい計画作りが始まり、そのお手伝いをすることも役割でした。

この間、学生の皆さんは次々に卒業され、それぞれ地域医療の道を歩んで行かれました。また一方、毎年はつらつとした学生さんをお迎えし、自身も若返りの効果を頂きました。皆様の今後社会への末長い貢献とご自身のお幸せをお祈りします。

私も社会との接点を大事にしていきます。お世話になった皆さんとばったりお会いするのを楽しみにしています。その時はよろしく願います。再見

地域医療支援センターには、4月から勤務しております。気が付くと1年が経ちました。

今は大学病院勤務ですが、もともと病院にかかるのがいやで、体の不調はできるだけ気合で治すタイプで、病院とは縁遠い方でした。4月当初出勤時に外来棟にたくさんの患者さんが朝早くから順番待ちをしている姿を見てびっくりしたのを覚えています。また、自分も年を重ねてひざや腰など体のあちらこちらにガタが来ています。早く治してくれそうな病院を探そうになりました。そういえば、

子供が小さい頃は、熱発すると夜間でも診てくれる病院に直ぐ連れて行ったし、やっぱり現代人の生活に医療機関は無くてはならない大切なものなんだと改めて実感しています。

誰もが、どこにいても安心して医療機関で診療を受けられること、そんな人々のささやかな、でも大切な願いのために、お医者さんがちゃんといてくれる環境になるように、微力ではありますが頑張ります。皆さんよろしく願います。

今年度は肅々と進めてまいりました熊本県女性医師キャリア支援センターの活動ですが、マタニティ白衣・パンツの貸出し、男女医師からの相談、全国より熊本県医師キャリアサポートブック（CLOVER）についての問い合わせが多数ありました。これも学会等で当センターの活動を周知していただいた先生方のおかげだと感謝しております。

今年一番の思い出は、第8回西予市お伊ネ賞事業において後藤先生の授賞式に参加させていただいた事です。会場の大きさと、そうそうたる来賓の方々に驚き、参加しただけの私も緊張しました。

来年度は、熊本県医師キャリアサポートブックの第4版の作成やアンケート調査、また地域でも女性医師が働きやすい環境づくりを色んな部署と連携しながら進めていきたいと思います。

寄附講座に入ったばかりの頃は、何も分からず日々の業務に追われ、気が付けば最後の任期の年を迎えておりました。5年前はこじんまりとしていた事務室が、事務の方も増え、今では活気に溢れています。どんな企画でもチームワークで乗り越えていくことができる逞しい事務の皆さんです。

「夏季実習」は、毎回準備が大変ではありますが、地域の方々や学生の皆さんとの交流もあり、楽しみながら従事させていただき、終わった後の達成感は言葉では表せないものがありました。また、「地域医療ゼミ」では、新入生を迎え入れ、卒業生を送り出していくなかで、学生同士の縦の繋がりをもっと持てるように、今後は、交流の場をさらに有効に使って行って欲しいと思います。医師を志す学生の皆さんが、地域で活躍されますよう願っております。

寄附講座で務めさせていただきましたこと、先生方、事務の皆さん、学生の皆さんとの出会いに大変感謝しております。ありがとうございました。

坂田 正充
地域医療支援
コーディネーター

松岡 大智
地域医療支援
コーディネーター

高塚 貴子
女性医師復職支援
コーディネーター

久保 清美

中川 実咲

こちらで仕事をして5年が経ちました。長年のようでいて、しかしあっという間でもありました。最初の1年は「知る」ことにつきます。今まで全く関わりのなかった医学生がどんな人たちなのかを知るために、お話を聞いたりゼミを見学したりして少しずつ知っていききました。2年目は地震が発生し、学生ながらも被災地での医療に携わる医学生やその後も被災した人たちのために活動続ける医師達の姿に尊敬の念を覚えました。3年目という仕事に慣れてきた頃に母を亡くし、業務もままならない中を職場の皆さんに支えていただきました。4年目は立ち直りかけた中でさらに父を亡くし、私事も仕事も大変ながらなんとかやってきました。5年目は祖母たちの面倒を見ながらどうにか仕事も続けて、私生活も大変でした。そんな大変な中ですが、自分の作ったポスターを見て講演会に来てくださった方がいたり、作った資料が皆さんの役に立ったりすることでとても励みになりました。今までの自分の仕事が皆さんの役に立てていたならうれしい限りです。5年間大変お世話になりました。ありがとうございました。

今年度は地域医療・総合診療実践学寄附講座に在籍させて頂き、昨年度に続き、主に学生の皆さんの学外実習、講義等の事務補助をさせて頂きました。医学科5年～6年次での特別臨床体験実習(クリクラ) ももちろんですが、3年次に行う「早期臨床体験実習Ⅲ(E C EⅢ)」の振り返りでも、学生からは「大学病院内では体験出来ないことができてとても有意義だった」、「もっと長い期間行いたかった」という感想があり、施設側からも「学生を受け入れて施設内にも活気がでた」、「初心に帰った」等、今後も協力していきたいとの感想を多くいただき、そのような実習のお手伝いが出来たことを大変嬉しく思っています。こうした実習を通して、1人でも多くの学生が医師として成長し、そのなかで地域医療の重要性ややりがいを感じてくれることを願いながら、来年度は更に別の形で講座のお役に立てるよう頑張りたいと思っています。

今年度は私自身活動の範囲を広げ、夏季実習は企画段階から参加させていただいたり、京都で開催された日本プライマリケア連合学会学術集会にも参加させていただきました。

夏季実習では自治体や関係施設の方々と接することが増え、その中で皆さんの医学生に対する期待の大きさをひしひしと感じました。学生の皆さんもその期待を感じ取ったのではないのでしょうか。地域の方々の切実な思いに応え、皆さんがいつか夏季実習で訪れた地域で勤務されることを期待します。

日本プライマリ・ケア連合学会学術集会では、初めて学会に参加し、志同じく活躍されている先生がこんなにたくさんおられるんだびっくりいたしました。日頃机上の書類の処理に追われ、自分の仕事の本質を忘れがちですが、先生方・学生の皆さんが地域医療、総合診療に情熱を燃やす原点や熱意を感じることができ、一事務の私でも先生方と同じ方向を向いて動くきっかけとなる良い経験をさせていただきました。

この経験を活かして、皆様のサポートを今後一層頑張りたいと思います。

今年度は例年開催している講演会やセミナーに加え、臨床研究ワークショップ、夏季実習、他県で同じような取り組みを行っている機関への視察等、いつになく様々な経験をさせていただきました。夏季実習と他県の視察では私自身はじめて訪れる地域ではありましたが、立地状況や町並み・暮らしなど、訪れることで事前情報では気づかなかった部分が見えたり、新たに気づいたりする部分も多くありました。その地域のすべてを知ったわけではないですが、「百聞は一見にしかず」まさにこのことだなと感じました。

また、ここでの業務に携わらせていただき4年が経ちました。センターに関するほとんどの事務処理を私が行っておりますので、つい「ひとりでやっている」と思うかもしれませんが…いつも、コーディネーターや寄附講座事務員の皆さんの温かい支えにより円滑に業務をこなすことができています。感謝申し上げます。また、先生方、他部署や関連機関の皆さまにも、いつもご協力いただき大変助かっております。いつもありがとうございます。

まだまだ至らない点も多いですが、これからも、熊本県地域医療支援機構ならびに地域医療支援センターの活動がより良いものとなるよう、微力ながら精一杯サポートさせていただきたいと思っています。

山口 香

山並 美緒

横手 友紀子

3.あ と が き

2019年度は、2020年になって、COVID-19（コロナウイルス）のパンデミックで、日本のみならず、世界中が大きな災難に見舞われ始めました。医療の現場もその対策に追われ、熊本県の地域医療機関にとっても、苦難が生じ始めていると感じております。

その様な中で、2019年度の私ども「地域医療支援センター」の活動をご報告させていただきました。設置から6年目となり、今年度は、「地域医療・総合診療実践学寄付講座」の「天草教育拠点」を新たに設置し、地域で総合診療での貢献と人材育成を展開する事ができました。今後、県の修学資金貸与制度の卒業生がますます地域の医療機関に出ていく事が増えて参りますが、地域貢献とキャリア形成を更に充実させていく方策を進めていきたいと思っております。

男女共同参画事業も「熊本県女性医師キャリア支援センター」として、地道に着実に活動を続けておりますが、少しずつ成果も出てきていると思われます。こちら、より一層のご理解を賜りたいと願っております。

次年度は、熊本県とも更に協力して「地域医療対策協議会」の実施・運営や、「熊本県地域医療ネットワーク構想」の遂行に協力し、熊本県の「第7次保健医療計画」の実現に微力ながらお役に立てばと願っております。

最後に、谷原病院長・機構理事長を始め、大学内の様々な先生方、事務方等には多々ご指導・ご支援いただきました。また、当地域医療支援センターの事務部門のスタッフの方々および、県庁の医療政策課の方々にも、多大なるご助力をいただきました。本年度も地域医療の貢献の為にご理解いただいた全ての関係者に、あらためて、一層の感謝を申し上げますとともに、次年度もどうか宜しくお願い申し上げます。

地域医療支援センター 谷口 純一

熊本県地域医療支援機構 / 熊本大学病院 地域医療支援センター



〒860-8556 熊本市中央区本荘1-1-1
Tel: 096-373-5627 Fax: 096-373-5796
E-mail: chiiki-iryo@kumamoto-u.ac.jp
HP: <http://www.chiiki-iryo-kumamoto.org/>

熊本大学病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座



〒860-8556 熊本市中央区本荘1-1-1
Tel: 096-373-5794 Fax: 096-373-5796
E-mail: chiiki_soushin@kumamoto-u.ac.jp
HP: <http://www.chiiki-iryo-kumamoto.org/dcfgm/>